

2026年度 講義要綱

科目	コミュニケーション I	必修 講義	講師	松森 照幸
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クラスを一つの集団とみなし、集団として成長していく過程を体験学習する。</li> <li>・保育者に必要とされるコミュニケーション力を養う。</li> <li>・認定絵本士養成講座科目を学び絵本への理解を深める。(該当科目6コマ)</li> <li>・就職について1年前期 1コマ(6月頃9~11回の中に1コマ)ENMAP登録 1年後期 1コマ(11月頃)就活ガイダンス(就活年次までのスケジュール、履歴書、面接について)</li> </ul>			
授業目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己洞察力を養い、安定した人間関係を養えるようにする。コミュニケーション能力を身に付ける。</li> <li>・社会人としての自己像を明確にする。</li> <li>・我が国の読書推進活動に関する施策の経緯について理解する。受講者同士の相互理解を深め絵本専門士の役割について確認する。(認定:「オリエンテーション」なかむらしんいちろう)</li> <li>・相談者の要望に応じた絵本を提案する技術を体得する。絵本の提案の前提となる、絵本に係る情報収集及び整理の方法について理解する。(認定:絵本の世界を広げる技術③(絵本コンシェルジュ術)江花志乃)</li> <li>・公共図書館の行う児童サービスについて理解する。地域の読書活動推進活動における絵本をめぐる活動の展開を理解する。(認定:「絵本と出会う③」千葉幸)</li> <li>・絵本の内容及び特質を客観的に捉えることについて理解する、書評及び紹介文の書き方を体得する。(認定:「絵本を紹介する技術②」横山雅代)</li> <li>・障害者、病児及び高齢者等絵本の選択や紹介にあたり、特に配慮を必要とする人について理解する。(認定:「絵本を紹介する技術③」千葉美香)</li> <li>・絵本を活用した表現活動について理解する。絵本を活用した表現活動の基礎的技術を体得する。(認定:「絵本の世界を広げる技術②(ワークショップ)」なかむら・加藤ふじこ・やまじひとみ)</li> </ul>			
到達目標1	・認定絵本士養成講座科目を学び、絵本に関する総合的なプロデュース力を身につけることができる。計6コマ	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度・課題提出 50点	
到達目標2	・保育者に必要とされるコミュニケーション力を養い、進路決定に必要な基本的知識、スキルを活用できる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度 50点	
授業方法	コミュニケーション力を高めるために、レクリエーションゲーム、課題解決学習、ロールプレイ、行事企画等、様々な形の学習を体験する。			
授業計画	1 オリエンテーション 2 クラス活動 3 クラス活動 4 クラス活動 5 クラス活動 6 クラス活動 7 クラス活動 8 現場連携週 9 【就職】① ENMAP登録 担当:就職相談室 10 クラス活動 11 クラス活動 12 現場連携週 13 クラス活動 14 クラス活動 15 クラス活動 前期終了 16 オリエンテーション 後期 17 クラス活動 18 【認定絵本士養成講座科目】初回「オリエンテーション」担当:なかむらしんいちろう 19 【認定絵本士養成講座科目】「絵本のある空間」(絵本のある望ましい空間とは)担当:江花志乃 20 クラス活動 21 【認定絵本士養成講座科目】「絵本と出会う③」(図書館等での出会い～絵本の活用及び地域連携の可能性～)担当:千葉幸 22 クラス活動 23 現場連携週 24 クラス活動 25 【認定絵本士養成講座科目】「絵本の世界を広げる技術②(ワークショップ)」なかむら・加藤ふじこ・やまじひとみ 26 【就職】② 就活ガイダンス(就活年次までのスケジュール、履歴書、面接について) 担当:就職相談室 27 現場連携週 28 【認定絵本士養成講座科目】「絵本を紹介する技術③」(支援が必要な人々や高齢者への絵本の役割) 課題提出 担当:千葉美香 29 クラス活動 30 【認定絵本士養成講座科目】「絵本を紹介する技術②」(書評・紹介文の書き方)担当:横山雅代			
必須テキスト	【認定絵本士科目】認定絵本士養成講座テキスト			
参考文献				
担当教員の専門分野等	松森 照幸:実務経験のある教員 【認定絵本士養成講座担当講師】 ○なかむらしんいちろう:講座責任者・絵本を活用したワークショップの企画及び実践経験を持つ者 ○千葉美香:障がい者、病児、高齢者、特に配慮を要する人及び当該者向けの絵本に精通した者 ○江花志乃:書店における絵本の売り場づくり、及び、絵本の出版流通に精通した者 ○千葉幸:図書館司書業務と、地域の読書推進活動における絵本をめぐる活動の現状に精通した者 ○横山雅代:書評に関する専門的知識を有する者 ○加藤ふじこ・やまじひとみ:絵本を活用したワークショップの企画及び実践経験を持つ者			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	30 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10 %
	社会人としての基本	20 %	主体性 素直 思いやり	10 %
	他者と関わる力	20 %	専門的知識・技術	10 %

## 2026年度 講義要綱

科 目	コミュニケーション I  必修 講義	講 師	石橋 充	
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会人としての基礎知識を養う。</li> <li>・就職について1年前期 1コマ(6月頃9~11回の間に1コマ)ENMAP登録 1年後期 1コマ(11月頃)就活ガイダンス(就活年次までのスケジュール、履歴書、面接について)</li> </ul>			
授業目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己洞察力を養い、安定した人間関係を養えるようにする。コミュニケーション能力を身に付ける。</li> <li>・社会人としての自己像を明確にする。</li> </ul>			
到達目標1	社会人としての必要なコミュニケーション能力を発揮し、同僚性を養うことができる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度・課題提出 50点	
到達目標2	自己洞察力を養い、学習や実習に活かすことができる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度 50点	
授業方法	コミュニケーション力を高めるために、レクリエーションゲーム、課題解決学習、ロールプレイ、行事企画等、様々な形の学習を体験する。			
授業計画	1 1 オリエンテーション/クラス活動			
	2 2 クラス活動			
	3 3 クラス活動			
	4 4 クラス活動			
	5 5 クラス活動			
	6 6 クラス活動			
	7 7 クラス活動			
	8 8 クラス活動			
	9 9 クラス活動			
	10 10 クラス活動			
	11 11 クラス活動			
	12 12 クラス活動			
	13 13 クラス活動			
	14 14 クラス活動			
	15 15 クラス活動			
	16 16 クラス活動			
	17 17 クラス活動			
	18 18 クラス活動			
	19 19 クラス活動			
	20 20 クラス活動			
	21 21 クラス活動			
	22 22 クラス活動			
	23 23 クラス活動			
	24 24 クラス活動			
	25 25 クラス活動			
	26 26 現場連携週			
	27 27 クラス活動			
	28 28 クラス活動			
	29 29 クラス活動			
	30 30 クラス活動 後期終了			
必須テキスト				
参考文献				
担当教員の専門分野等				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	30 %	社会の動きに関心を持ち 学び続ける力	10 %
	社会人としての基本	20 %	主体性 素直 思いやり	10 %
	他者と関わる力	20 %	専門的知識・技術	10 %

## 2026年度 講義要綱

科 目	体育講義 <div style="text-align: right;">必修 講義</div>	講 師	菊池 一英	
授業概要	生涯に渡り「健康な生活」を維持していくために、体育(幼児体育)がどのような貢献ができるか、そのための知識・技能を身に付ける。			
授業目標	1. 健康とは、体育とは、運動能力とは、発育、発達、成長とは、どのような言葉の概念規定があるかを歴史的、文化的、生理学的に学び習得する。 2. 具体的な保育場面を想定して環境構成や運動遊具を活用する保育過程を理解する。			
到達目標1	1. 保育現場を想定して、実際の指導内容を、年齢発達に沿った編成ができる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み姿勢・グループワーク討論への貢献度(20点) リアクションペーパー提出(30点)	
到達目標2	2. 幼児の発育、発達の特徴を踏まえ、各年齢に合わせて、実技種目で身体を動かすことができる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	実技種目で積極的に体を動かす(20点)チームで協力する姿勢を見せる(30点)	
授業方法	講義形式、グループワークトークキング(GW)、DVD視聴、実技体験			
授業計画	1 オリエンテーション(授業概要、目標、評価、服装など) 領域「健康」の中での幼児体育の位置づけとは何か？ 2 幼児体育の意義と社会的背景とは？ 3 運動遊具を使う遊び(マット)※実技 4 幼児期に体力をつける、運動能力を伸ばすとは？ 5 保育現場での体育的活動の実際ー設定保育と自由保育ー<DVD視聴> 6 健康観の変遷 7 リズムダンス遊び※実技(さんぽ他) 8 現場連携 9 体育、幼児体育の歴史的変遷 10 体育遊びへの導入と展開(鬼遊び)※実技 11 ファンタジーと体育あそび(DVD視聴) 12 現場連携 13 幼児期の身体発達と運動能力の特徴 14 運動遊具を使う遊び(巧技台)※実技 15 発育・発達・成長とは何かを問い直す<DVD視聴>			
必須テキスト	特に指定なし			
参考文献	『仲間づくりのためのおもしろゲーム遊び』メイト 菊池一英著			
担当教員の専門分野等	「実務経験のある教員による授業」に該当。保育所に副園長兼保育士として長年勤務。現在幼児体育講師として保育所にスーパーバイザーとして非常勤勤務。			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	10 %	社会の動きに関心を持ち 学び続ける力	10 %
	社会人としての基本	20 %	主体性 素直 思いやり	10 %
	他者と関わる力	30 %	専門的知識・技術	20 %

## 2026年度 講義要綱

科 目	体育実技 必修 講義	講 師	菊池 一英	
授業概要	保育現場での体育(幼児体育)実技指導の導入ー展開ーまとめの方法とスキルを身に付けます。また、同時に遊具の安全管理についても学びます。			
授業目標	様々なバリエーションの実技を実際に行ってみて、保育現場で応用できる、実践力を習得する。			
到達目標1	保育場面を想定して、実技指導内容をプレゼンテーションができるようになる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	体育実技への取り組みの貢献度(30点)実技指導内容のプレゼン力(20点)	
到達目標2	指導内容のねらい、留意点を踏まえ、運動内容を組み立てることができる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	リアクションペーパーの充実度(30点)運動内容に見合うねらい、留意点の把握(20点)	
授業方法	実際の体育(幼児体育)実技、運動遊びを集団で経験する。また、DVD視聴で様々な保育現場での取り組みを体験する。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション、体育遊びへの導入ー展開(ふれあい遊び)</li> <li>2 運動遊具を使う遊び(マット)</li> <li>3 体育遊びへの導入ー展開と方法(まねっこ遊び)</li> <li>4 運動遊具を使う遊び(巧技台)</li> <li>5 ファンタジー遊びの実際と方法&lt;DVD視聴&gt;</li> <li>6 体育遊びへの導入ー展開と方法(ジャンケン遊びジャンケン命令他)</li> <li>7 体育遊びへの導入ー展開と方法(鬼遊びジャンケンどっち鬼他)※野外指導</li> <li>8 現場連携</li> <li>9 体育遊びへの導入ー展開と方法(手遊び洋風おべんと箱他)</li> <li>10 サーキット遊び運動遊びへの実際と方法&lt;DVD視聴&gt;</li> <li>11 ロープワーク遊びの実際と方法(つなとり他)</li> <li>12 産学連携</li> <li>13 体育遊びへの導入ー展開と方法(ダンス遊びゴリラ、さんぼ、きのこ)</li> <li>14 体育遊びへの導入ー展開と方法 造形くきのこ&gt;とのコラボレーション</li> <li>15 保育現場の運動会の実際(運動会で楽しむゲームのねらいと留意点)</li> </ol>			
必須テキスト	特に指定なし			
参考文献	『仲間づくりのためのおもしろゲーム遊び』メイト 菊池一英著			
担当教員の 専門分野等	「実務経験のある教員による授業」に該当。保育所に副園長兼保育士として長年勤務。現在幼児体育講師として保育所にスーパーバイザーとして非常勤勤務。			
この授業で 身につく 「6つの力」	職業に対する理解	10 %	社会の動きに関心を持ち 学び続ける力	10 %
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	10 %
	他者と関わる力	30 %	専門的知識・技術	30 %

## 2026年度 講義要綱

科 目	日本語 必修 講義	講 師	横山 雅代	
授業概要	子どもたちを豊かな日本語で育むために、日本語の豊かさを知り、自分の言葉を持つことや表現することの大切さをより深める。			
授業目標	日本語の豊かさを味わう。日本語の背景を知る。言葉の理解を深める。文章表現を向上させる。日本語を楽しむ。			
到達目標1	毎回提出の感想用紙に、その日の授業で感じたこと、考えたことを具体的に記述できるようになる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	感想に、自分の感じたことや考えたことが書かれている (50点)	
到達目標2	到達目標1に対する考察が書けるようになる。他者の考えを聞くことができ、尊重しあえる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	到達目標1に対して、どうしてそう感じたか考えたかの考察が書かれているか(25点) 他者の発表や意見を聞いて感じたこと、考えたことが書かれているか(25点)	
授業方法	様々な絵本をとりあげながら、講義とワークショップ形式で進める。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション(あいうえお作文とほめ言葉で自己紹介)</li> <li>2 わらべうた～かぞえうた～かぞえかた</li> <li>3 なぞなぞとダイアローグ</li> <li>4 音のいろいろ</li> <li>5 詩のいろいろ</li> <li>6 色のいろいろと自然のことば</li> <li>7 食のいろいろ</li> <li>8 現場連携</li> <li>9 絵本テキストの比較</li> <li>10 オノマトペを作る</li> <li>11 人称の変換</li> <li>12 現場連携</li> <li>13 視点と文体</li> <li>14 現代社会と絵本表現</li> <li>15 まとめ(みんなで絵本を作る)</li> </ol>			
必須テキスト	必要な際にプリントを配布			
参考文献	必要な際にプリントを配布			
担当教員の 専門分野等	絵本、紙しばい、児童書の編集歴35年			
この授業で 身につく 「6つの力」	職業に対する理解	10%	社会の動きに関心を持ち 学び続ける力	30%
	社会人としての基本	10%	主体性 素直 思いやり	10%
	他者と関わる力	30%	専門的知識・技術	10%

## 2026年度 講義要綱

科 目	保育原理 必修 講義	講 師	大河 英美	
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事例を通して保育の知識や目的などを学習する。</li> <li>・子どもの姿を知り、子どもに寄り添う保育を考える。</li> <li>・グループ学習やゲームを通して、保育者にとって大切なコミュニケーション力を養う。</li> </ul>			
授業目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育の考え方、自己分析力、観察力を養い、自ら行動する積極性を身に付ける。</li> <li>・チームワーク、連携を大切にし、安定した人間関係が構築できるようになる。</li> </ul>			
到達目標1	積極的に授業に参加し、社会人としての心得を身につける。また、コミュニケーションをとりながら自分が大切にしたい保育を探ることができる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	出席率、 授業態度(積極性、コミュニケーション力など) 50点	
到達目標2	保育士として使用、守るべき法令、規則が何でどこを確認すればよいか分かるようになる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	テストによる評価、50点	
授業方法	コミュニケーションスキルを身に付けるためにグループワーク、ディスカッションゲーム、課題解決学習など、様々な学習形態を経験していく。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 ガイダンス～授業の進め方、保育とは何か 保育の目的と意義～</li> <li>2 保育の思想と歴史の理解</li> <li>3 保育に関する法令、制度について</li> <li>4 子どもの最善の利益とは</li> <li>5 子ども・子育て支援新制度</li> <li>6 産学連携</li> <li>7 保育所保育指針とは</li> <li>8 子どもの理解に基づく保育の過程</li> <li>9 保育者の役割と責務</li> <li>10 保育内容について</li> <li>11 子どもを理解する～事例検討～</li> <li>12 産学連携</li> <li>13 子どもを理解する～事例検討～</li> <li>14 保護者支援・対応の在り方</li> <li>15 保育の現状と課題 まとめ</li> </ol>			
必須テキスト				
参考文献	teamsにて資料格納いたします。			
担当教員の 専門分野等	実務経験ありの教員による授業。幼稚園教諭、障害児保育、認可、認証保育園など様々な現場で勤務し、2020年まで株式会社の保育園で園長として勤務。株式会社の本社で保育運営担当の責任者、研修、監査、園長指導、運営指導に携わり、現在は採用部部長として勤務している。			
この授業で 身につく 「6つの力」	職業に対する理解	10%	社会の動きに関心を持ち 学び続ける力	10%
	社会人としての基本	30%	主体性 素直 思いやり	20%
	他者と関わる力	20%	専門的知識・技術	10%

## 2026年度 講義要綱

科 目	保育原理 必修 講義	講 師	水引 貴子	
授業概要	保育者になるための基本的な知識と考え方を習得する。保育の意義及び目的、法令及び制度、保育所保育指針の内容を理解し、保育の現状と課題を自身で説明できるようになる。また、自分を振り返る体験を通して、より善い保育とは何か、自ら追求する姿勢を育てる。			
授業目標				
到達目標1	保育の基礎概念(思想・歴史・制度)を深く理解し、それらを自分の言葉(専門的表現)で整理して説明できる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	毎回の要約レポート(35点)、レポートⅠ(15点)	
到達目標2	現代の保育のニーズや課題をふまえ、子どもにとって「より善い保育」とは何かを多角的に考察し、自ら追求する姿勢を論理的に記述できる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	毎回のリアクションペーパー(20点)、レポートⅡ(30点)	
授業方法	オンデマンド授業			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション、保育原理を学ぶ意義、レポート</li> <li>2 子ども観の変遷</li> <li>3 日本の保育の歴史</li> <li>4 子どもの権利条約</li> <li>5 保育の制度と保育所保育指針・幼稚園教育要領</li> <li>6 保育の環境、中間まとめ</li> <li>7 子どもの遊びと学び</li> <li>8 現場連携週</li> <li>9 保育の計画と評価</li> <li>10 保育者の役割と専門性</li> <li>11 多様なニーズへの対応</li> <li>12 現場連携週</li> <li>13 幼小連携と育ちの連続性</li> <li>14 保育とICT</li> <li>15 まとめ</li> </ol>			
必須テキスト	保育所保育指針			
参考文献	幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、その他、適宜紹介する			
担当教員の専門分野等	子ども観の歴史を研究テーマとしているが、近年では学生・実習園・養成校にとって「よい実習とは何か」をテーマにした研究も行っている。小学校教員の経験がある。			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	20 %	社会の動きに関心を持ち 学び続ける力	10 %
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	10 %
	他者と関わる力	10 %	専門的知識・技術	40 %

## 2026年度 講義要綱

科 目	教育原理 必修 講義	講 師	水川 秀樹	
授業概要	我が国における教育史・幼児教育についての変遷を中心に、教育思想及び子ども観を概観し、現代社会における教育・保育内容がどのように成立したかを理解する。後半は地域のつながりと保育の在り方に重点を置く。 世界の教育内容や思想の成り立ち、現代的な教育問題を提示し、問題意識をもって理解する。			
授業目標	教育に関する様々な思想、それらと多様な教育の理念や実際の教育及び学校との関わりを理解している。具体的には、保育者・幼児教育者に求められる教養や専門的知識、実践力、使命感や子どもを受け止め理解しようとする力など、保育者・幼児教育者に必要な人間的資質について教育思想家の思想を基礎に学習し、自己の理想とする保育者・幼児教育者像を確立するための基礎を培う。			
到達目標1	我が国における教育史及び幼児教育における授業内容において、グループワーク等で積極的に発言・または質問を行うことを目標とする	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	グループワークを中心とした授業態度 50点	
到達目標2	授業において学んだ理論及び実践の知識を毎週のレポート及びテストにおいて理解度を評価する。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	ミニレポート・学期末試験 レポート 10点 テスト 40点	
授業方法	講義形式にて行うが、内容においてはグループワークにて実践シミュレーションや議論を行う。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション 教育原理とは何か 幼児教育における資質・能力の基本</li> <li>2 教育における西洋的価値観とは 地政学の視点から</li> <li>3 教育における日本的価値観とは 地政学の視点から</li> <li>4 遺伝と初期教育の臨界点とは 脳の発達から考える</li> <li>5 日本教育史① 明治時代における学校の成り立ち</li> <li>6 日本教育史② 大正以降における学校運営</li> <li>7 日本教育史③ 戦中戦後における学校運営～「一斉保育」と「自由保育」を中心に</li> <li>8 現場連携</li> <li>9 世界の教育内容② 北欧の教育内容とは</li> <li>10 地域における教育の現状① 里山保育の概要</li> <li>11 地域における教育の現状② 里山保育における資質能力の向上とは</li> <li>12 現場連携</li> <li>13 欧米におけるサークルタイム活動の現状とは～レッジョエミアを中心に</li> <li>14 保育実習における子どもたちの資質・能力を育む実践方法</li> <li>15 本講座のふりかえり</li> </ol>			
必須テキスト				
参考文献	保育のための教育原理			
担当教員の専門分野等	子ども学・教育学			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	30 %	社会の動きに関心を持ち学び続ける力	20 %
	社会人としての基本	20 %	主体性 素直 思いやり	20 %
	他者と関わる力	20 %	専門的知識・技術	20 %

## 2026年度 講義要綱

科 目	教育原理 必修 講義	講 師	大橋 歩実	
授業概要	講義では「教育とは何か」という問いを、歴史的・思想的な知識をもとに原理的に問い直します。現代の教育をめぐる諸課題を現場の知見と重ねながら多角的に考察するとともに、子どもたちが直面する現実とその背景にある教育の論理を学びます。			
授業目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育の歴史・思想・制度に関する基礎的知識を習得し、「教育とは何か」という問いを多角的・原理的に考察する力を身につける。</li> <li>・現代の子どもを取り巻く環境や教育的諸課題と向き合いながら、自らの教育観を言語化し、実践の根拠として持てるようになる。</li> </ul>			
到達目標1	教育学の基本的な諸概念及び教育に関する理念・歴史・思想に関する基礎的な事項について理解し、自らの教育観を深めることができる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	毎回のリアクションペーパー(20点)、レポート(30点)	
到達目標2	講義の中で考えたことについて自分の言葉で表現することができる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	毎回のリアクションペーパー(20点)、レポート(30点)	
授業方法	基礎的な事柄については講義形式で授業を行い、適宜グループワークやディスカッションに取り組みます。毎回のリアクションペーパーと、期末レポートに基づいて評価します。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 「良い教育」とはなんだろう</li> <li>2 教育はなんのためにあるのか:教育思想を学ぶ</li> <li>3 「子ども」とはどのような存在か:「子ども」の発見から子どもの権利条約まで</li> <li>4 子どもはいつから学校に通うようになったのか:公教育の誕生</li> <li>5 どのような制度のもとで保育・教育は行われているのか</li> <li>6 子どもにとって「遊び」とはなにか</li> <li>7 現場連携週</li> <li>8 保育者にとって「教育する」とはどういうことか</li> <li>9 現代の子どもたちはどのような環境に置かれているのか</li> <li>10 インクルーシブ教育とはなんだろう:その理念と背景を学ぶ</li> <li>11 現場連携週</li> <li>12 インクルーシブ教育の実践例を学ぶ</li> <li>13 インクルーシブ教育と社会参加:何のための「包摂」なのかを考える</li> <li>14 保育と小学校教育のはざま:幼小接続の現状と課題を考える</li> <li>15 あらためて「良い教育・良い保育」とはなんだろう</li> </ol>			
必須テキスト	特に指定しません。授業中に適宜紹介します。			
参考文献	特に指定しません。授業中に適宜紹介します。			
担当教員の専門分野等	専門分野:障害学、教育史、インクルーシブ教育。東京大学大学院教育学研究科博士課程。修士(教育学)。 主な活動:中学校における学習支援員(東京都国立市)。福島県の小中学校における学習支援活動。障害の有無に関わらず共に遊び学ぶ場の運営、自立生活を送る障害者の介護。			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	15 %	社会の動きに関心を持ち学び続ける力	25 %
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	10 %
	他者と関わる力	20 %	専門的知識・技術	20 %

## 2026年度 講義要綱

科 目	子ども家庭福祉 必修 講義		講 師	藤高 直之
授業概要	子どもと子どもを取り巻く環境についての基礎的な理解を深め、福祉専門職として子ども・家庭福祉に関する現状と課題を主体的に捉えることを目的とする			
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史の変遷について理解する。</li> <li>2. 子どもの人権擁護について理解する。</li> <li>3. 子ども家庭福祉の制度や実施体系等について理解する。</li> <li>4. 子ども家庭福祉の現状と課題について理解する。</li> <li>5. 子ども家庭福祉の動向と展望について理解する。</li> </ol>			
到達目標1	福祉専門職として、現在社会と子ども家庭福祉の現状や課題、福祉制度や福祉サービスの実際、展望について説明することができる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度(20点)、講義内容にレポート(30点)	
到達目標2	福祉専門職として、子どもの人権擁護について意見を述べる事ができる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	グループワークへの貢献度(50点)	
授業方法	講義中心で進めていくが、状況に応じて、事例考察やグループワークなどを取り入れて行っていく。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション・子ども家庭福祉の理念と概念</li> <li>2 子ども家庭福祉の歴史の変遷と諸外国の動向</li> <li>3 子どもの人権擁護</li> <li>4 子ども家庭福祉の制度と実施体制</li> <li>5 子ども家庭福祉の施設と専門職</li> <li>6 少子化と地域の子育て支援 母子保健と子どもの健全育成</li> <li>7 現場連携回</li> <li>8 多様な保育ニーズへの対応</li> <li>9 子ども虐待・ドメスティックバイオレンスとその防止</li> <li>10 貧困家庭、外国籍の子どもとその家庭への対応</li> <li>11 現場連携回</li> <li>12 社会的養護</li> <li>13 障害のある子どもへの対応</li> <li>14 少年非行への対応</li> <li>15 講義のまとめ</li> </ol>			
必須テキスト	「新基本保育シリーズ6 子ども家庭福祉 第2版」中央法規出版 ISBN978-4-8058-8786-8			
参考文献	参考資料は授業時に紹介。			
担当教員の専門分野等	子育て支援を中心とした子ども家庭福祉分野を専門とする教員。			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	10 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	20 %
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	20 %
	他者と関わる力	10 %	専門的知識・技術	30 %

## 2026年度 講義要綱

科 目	子ども家庭福祉 必修 講義		講 師	秋山 雅代
授業概要	本授業では、子どもと子どもを取り巻く家庭・社会環境についての基礎的理解を深め、子ども家庭福祉の理念や制度、実施体制について学ぶ。さらに、子どもの最善の利益の保障という観点から、子ども家庭福祉の現状と課題について理解し、保育士として求められる家庭支援や地域連携のあり方について考察する。あわせて、児童虐待や子どもの貧困、ヤングケアラーなど現代社会における子ども家庭福祉の課題について学び、福祉専門職としての役割について理解を深める。			
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史の変遷について理解する。</li> <li>2. 子どもの権利と最善の利益の保障について理解する。</li> <li>3. 子ども家庭福祉に関する制度・法律および実施体制について理解する。</li> <li>4. 子ども家庭福祉の現状と課題について理解する。</li> <li>5. 保育士として求められる家庭支援や地域連携の役割について理解する。</li> </ol>			
到達目標1	福祉専門職として、現代社会における子ども家庭福祉の現状と課題、制度や福祉サービスの仕組みについて理解し、説明することができる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業内容の理解度を確認するための小レポートまたは確認テスト(50点)	
到達目標2	保育士として、子ども家庭福祉における家庭支援や地域連携の重要性を理解し、子ども家庭福祉に関わる専門職としての役割について説明することができる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	授業内容の理解度を確認するための小レポートまたは確認テスト(50点)	
授業方法	パワーポイントや映像資料などを用いた講義形式。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション／子どもや家庭を取り巻く環境の変化(1) 授業の目的と概要を理解する。少子化、家族形態の変化、女性の就労状況、地域社会の変化など、現代社会における子どもや家庭を取り巻く環境の変化について理解する。</li> <li>2 子どもや家庭を取り巻く環境の変化(2) 子どもの貧困、子育て家庭の孤立、地域の子育て機能の変化など、子ども家庭福祉の背景となる社会問題について理解する。</li> <li>3 子ども家庭福祉の発展過程 児童福祉の成立過程や歴史の変遷を学び、児童福祉法の成立と子ども家庭福祉政策の発展について理解する。</li> <li>4 子ども家庭福祉の制度と法律や実施体制(1) 児童福祉法、子ども・子育て支援法などの関連法制度について理解し、子ども家庭福祉の基本的枠組みを学ぶ。</li> <li>5 子ども家庭福祉の制度と法律や実施体制(2) 児童相談所、保育所、児童福祉施設、地域子育て支援拠点など、子ども家庭福祉を担う機関の役割と連携体制について理解する。</li> <li>6 子ども家庭福祉の現状と課題(1) 母子保健と子どもの健全育成 母子保健制度や地域の子育て支援の仕組みを学び、保育所保育指針における子どもの健やかな育ちを支える支援の重要性を理解する。</li> <li>7 現場連携週 現場の方のお話を聞き、実践的に学ぶ授業となります。</li> <li>8 子ども家庭福祉の現状と課題(2) 地域子育て支援と保護者支援 保育所保育指針第4章に基づき、保護者支援や地域の子育て支援の役割について理解する。</li> <li>9 子ども家庭福祉の現状と課題(3) 子どもの貧困と多様な家庭への支援 子どもの貧困問題や外国籍家庭など、多様な家庭状況に対応する支援のあり方について理解する。</li> <li>10 子ども家庭福祉の現状と課題(4) 多様な保育ニーズへの対応① 延長保育、一時預かり、病児保育など、多様化する保育ニーズへの対応と保育所の役割について理解する。</li> <li>11 現場連携週 現場の方のお話を聞き、実践的に学ぶ授業となります。</li> <li>12 子ども家庭福祉の現状と課題(5) DV(ドメスティックバイオレンス)とその防止 DVが子どもや家庭に与える影響と支援体制、関係機関との連携について理解する。</li> <li>13 子ども家庭福祉の現状と課題(6) 子ども虐待とその防止 児童虐待の現状、発生要因、早期発見と支援、要保護児童対策地域協議会などの連携体制について理解する。</li> <li>14 子ども家庭福祉の現状と課題(7) 多様な保育ニーズへの対応② 障害のある子ども、医療的ケア児など、インクルーシブな保育と子ども家庭支援について理解する。</li> <li>15 子ども家庭福祉の動向と展望 子ども家庭福祉の政策動向や今後の子ども家庭福祉の課題を踏まえ、保育士の役割と子ども家庭福祉の展望について考察する。</li> </ol>			
必須テキスト	特にありません。			
参考文献	授業時に提示します。			
担当教員の 専門分野等	ソーシャルワーク、多職種多機関連携、地域連携			
この授業で 身につく 「6つの力」	職業に対する理解	50 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10 %
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	10 %
	他者と関わる力	10 %	専門的知識・技術	10 %

## 2026年度 講義要綱

科 目	社会福祉 必修 講義	講 師	藤高 直之	
授業概要	現代社会における社会福祉の意義と歴史の変遷、相談援助の実際について学ぶ。 子ども家庭支援の視点に立ち、最新動向をふまえて現場の実践に関連づけながら学習する。			
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 現代社会における社会福祉の意義と歴史の変遷、及び社会福祉における子ども家庭支援の視点について理解する。</li> <li>2. 社会福祉の制度や実施体系等について理解する。</li> <li>3. 社会福祉における相談援助について理解する。</li> <li>4. 社会福祉における利用者保護の仕組みについて理解する。</li> <li>5. 社会福祉の動向と課題について理解する。</li> </ol>			
到達目標1	1.子育て家庭の生活課題について、現代の社会状況をふまえて広い視野で考えることができる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度(20点)、講義内容に関する筆記試験(30点)	
到達目標2	2.相談援助や利用者保護の仕組みを理解し、社会福祉の今後の展望に自らの関心を向けていくことができる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	グループワークへの貢献度(50点)	
授業方法	講義中心で進めていくが、状況に応じて、事例考察やグループワークなどを取り入れて行っていく。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 社会福祉の理念と歴史の変遷</li> <li>2 子ども家庭支援と社会福祉</li> <li>3 社会福祉の制度と法体系</li> <li>4 社会福祉行政と家庭機関、社会福祉施設等</li> <li>5 社会福祉の専門職</li> <li>6 社会保障および関連制度の概要</li> <li>7 相談援助の理論、相談援助の意義と機能</li> <li>8 現場連携</li> <li>9 相談援助の対象と過程、相談援助の方法と技術</li> <li>10 社会福祉における利用者の保護にかかわるしくみ</li> <li>11 少子高齢社会における子育て支援</li> <li>12 現場連携</li> <li>13 共生社会の実現と障害者施策</li> <li>14 在宅福祉・地域福祉の推進</li> <li>15 筆記試験と講義のまとめ</li> </ol>			
必須テキスト	「新基本保育シリーズ4 社会福祉 第2版」中央法規出版 ISBN978-4-8058-8787-5			
参考文献	参考資料は授業時に紹介。			
担当教員の専門分野等	子育て支援を中心とした子ども家庭福祉分野を専門とする教員。			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	10 %	社会の動きに関心を持ち 学び続ける力	20 %
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	20 %
	他者と関わる力	10 %	専門的知識・技術	30 %

## 2026年度 講義要綱

科 目	社会的養護 I 必修 講義	講 師	森脇 晋	
授業概要	今日、子どもを取り巻く環境は多様化複雑化し、保育所に通う園児の中にも社会的養護を必要とするものがある。そこで、保育者としてどのような職場で活躍するにせよ、自身に関わる子どもの最善の利益を守るために必要な最低限の社会的養護の知識・マインドの習得を目指す。			
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 現代社会における社会的養護の意義と歴史の変遷について理解する。</li> <li>2. 子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護の基本について理解する。</li> <li>3. 社会的養護の制度や実施体系等について理解する。</li> <li>4. 社会的養護の対象や形態、関係する専門職等について理解する。</li> <li>5. 社会的養護の現状と課題について理解する。</li> </ol>			
到達目標1	社会的養護の概念を理解し、子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護の役割を説明できる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業ごとに実施する確認テスト(50点)	
到達目標2	社会的養護の現状と課題、将来像を子どもの人権擁護の観点や歴史・制度等を踏まえて説明できる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	講義内容に関する期末の筆記試験(50点)	
授業方法	講義中心で進めていくが、状況に応じて、チャット等で授業参加を求めながら行っていく。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 1. 現代社会と社会的養護</li> <li>2 社会的養護の歴史</li> <li>3 社会的養護の仕組み</li> <li>4 措置を基本とする施設</li> <li>5 利用・契約を基本とする施設</li> <li>6 支援の実際</li> <li>7 ソーシャルワークと家庭支援</li> <li>8 現場連携週</li> <li>9 里親制度と里親支援</li> <li>10 施設等の運営管理</li> <li>11 地域における社会的養護</li> <li>12 現場連携週</li> <li>13 社会的養護の課題と将来像</li> <li>14 社会的養護の専門職の倫理と研鑽</li> <li>15 筆記試験と講義のまとめ</li> </ol>			
必須テキスト	図解で学ぶ保育 社会的養護 I (萌文書林)			
参考文献	授業内で紹介する			
担当教員の専門分野等	母子生活支援施設における施設長経験や、運営指針・ビジョン等の策定に携わった経験、自治体のこども家庭支援員の経験を元に、社会的養護の概念から最新動向に至るまでを、具体的な事例や動画を織り交ぜながら、受講者自身が考える授業を志向する。			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	10 %	社会の動きに関心を持ち 学び続ける力	20 %
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	20 %
	他者と関わる力	10 %	専門的知識・技術	30 %

## 2026年度 講義要綱

科 目	社会的養護 I		必修 講義	講 師	鴫田 陽介
授業概要	社会的養護に関する基礎的な知識(歴史や法制度など)を学ぶ。 児童虐待についての基本的な考え方や現状などを学ぶ。 要保護児童や被虐待児の特徴やその支援方法について学ぶ。 子どもの権利擁護の歴史の変遷や現在の内容について学ぶ。				
授業目標	現代社会における社会的養護の意義と歴史の変遷について理解する。 社会的養護の現状と課題について理解する。				
到達目標1	現代社会における社会的養護の役割と立ち位置を理解し、具体的に説明することができる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度(30点) 講義内容に関する筆記試験(20点)		
到達目標2	社会的養護の現状と現在の課題について、論理的に理解し、説明することができる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	レポート提出(40点) グループディスカッションへの取り組み度(10点)		
授業方法	講義中心で進めていくが、状況に応じて、事例考察やグループワークなどを取り入れて行っていく。				
授業計画	1 オリエンテーション(授業形式・成績評価について) 社会的養護を学ぶ意味と必要性 2 社会的養護の基本的な考え方や歴史 3 社会的養護に関わる法制度とその歴史 4 児童虐待の種類と現状 5 社会的養護の様々な形態 6 家庭的養護ー里親とはなにか?ー 7 社会的養護施設の現状①ー子どもたちの生活の姿ー 8 現場連携 9 社会的養護施設の現状②ー支援の原理原則ー 10 社会的養護施設の現状③ー愛着障害と発達障害の理解ー 11 社会的養護施設の現状④ー地域連携ー 12 現場連携 13 社会的養護施設の現状⑤ー関係機関との連携ー 14 社会的養護施設の今後の展望 15 テストと授業の振り返り				
必須テキスト	特に指定なし				
参考文献	授業内で紹介します。				
担当教員の 専門分野等	実務経験のある教員による授業。児童養護施設・発達障害児支援施設での勤務経験あり。				
この授業で 身につく 「6つの力」	職業に対する理解	40 %	社会の動きに関心を持ち 学び続ける力	20 %	
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	10 %	
	他者と関わる力	10 %	専門的知識・技術	10 %	

## 2026年度 講義要綱

科 目	保育の心理学 必修 講義		講 師	前川 圭一郎
授業概要	1. 保育実践に関わる発達心理学の基礎知識を学ぶ。 2. 発達心理学や学習心理学の知見と保育実践を結びつけながら学ぶ。 3. 環境と個の相互作用の視点から、個々の発達について具体的に学ぶ。			
授業目標	教育・保育に関わる心理学の基礎的知識を習得し、子どもの発達と学習の過程への理解を深めることを目的とする。 生涯発達の過程とともにその発達が人との相互的関わりを通してなされていくことを理解する。また、子どもの学習の過程に関する基礎的知識を身につけ、主体的な学習を支える基礎を身につける。			
到達目標1	重要な発達理論を理解し、各発達時期の特徴と課題を結び付けて説明することができる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み(毎回の授業終了時に行うアクションペーパー・小テストへの回答、20点)+定期試験(30点)=合計(50点) 意欲的、積極的な取り組みを評価し、期待します。	
到達目標2	発達と学習の理論を踏まえて、「環境と個の相互作用」という視点から幼児の発達を説明することができる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	討論への貢献度(グループワーク中に行うワークへの参加、20点)+発表レポート(30点)	
授業方法	授業では、遠隔の人も対面の人も参加できるようにSLIDOなどの参加ツールを利用し、グループワーク、課題解決学習等を実施する。 基本的に、対面の場合には、講義・演習形式で行う。 具体的には、課題解決学習、ロールプレイ、等を実施する。			
授業計画	1 オリエンテーション:「心理学」・「発達」とは何か？ 2 身体機能の発達と運動機能の発達 3 乳幼児期の特徴と発達 I 4 乳幼児期の特徴と発達 II 5 幼児期の特徴と発達 I 6 幼児期の特徴と発達 II 7 ことばとコミュニケーションの発達 8 現場連携 9 情動・社会性の発達 10 発達の多様性と凸凹について 11 「愛着」とは何か(その誤解と実際) 12 現場連携 13 科学に基づいた保育実践(応用行動分析学の視点から保育を考える) 14 就学移行支援と学齢期の支援 15 テスト			
必須テキスト	毎回の授業時に資料を提供する。また、副読本については、授業において随時紹介する			
参考文献	『保育学用語辞典(保育領域)』秋田らほか(2019)、中央法規			
担当教員の専門分野等	「実務経験のある教員による授業」に該当。保育所へのコンサルテーション・発達障害児の支援方法を研究。『保育学用語辞典』、『段階別でわかる！発達が気になる子のやる気を引き出す指導法』等を分担執筆。			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	10 %	社会の動きに関心を持ち学び続ける力	10 %
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	20 %
	他者と関わる力	10 %	専門的知識・技術	40 %

## 2026年度 講義要綱

科 目	保育の心理学 必修 講義	講 師	伊藤 貴大	
授業概要	1.乳幼児期の心理的発達とその援助について学ぶ 2.発達心理学、学習心理学、教育心理学等、保育場面に実践可能な心理学の基礎を学ぶ 3.保護者支援、家庭支援に関する心理学的支援について学ぶ			
授業目標	乳幼児の心理、社会的発達に関する理解を深め、保育者に求められる心理学的知識を習得する。 特別な支援を必要とする乳幼児の特性を理解し、基礎的な支援に関する知識を習得する。 保育・子育て支援の専門家として、保護者支援、地域支援に関する心理学的アプローチの基礎を習得する。			
到達目標1	乳幼児期における心理的発達を理解し、各発達段階における保育、支援について説明をすることができる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み(リアクションペーパーの内容:20点)、専門的知識の獲得(ミニテスト:30点)	
到達目標2	保護者支援、子育て家庭支援について、保育者としてできる具体的な支援アプローチについて、自身で考えて説明をすることができる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	講義内容に関するレポート、ミニ小論文課題(50点)	
授業方法	PPを用いた講義形式で実施			
授業計画	1 オリエンテーション:保育の心理学 2 乳幼児期の発達と環境 3 学習理論と保育者の援助 4 子どもの誕生と生物的基盤の形成 5 情動的コミュニケーションと愛着の発達 6 身体機能・運動の発達 7 自我の芽生えと内面成果の発達 8 現場連携週 9 遊びと社会性の発達 10 認識・思考・言語の発達と集団の形成 11 特別な支援を要する子どもの特性と発達支援 12 現場連携週 13 保護者の養育性と子育て支援 14 保育者の連携とチームワーク 15 まとめ:保育における今日的課題			
必須テキスト				
参考文献	寺見陽子編著「保育の心理学」(2024),建帛社			
担当教員の専門分野等	「実務経験のある教員による授業」に該当。児童発達支援センター心理士、児童発達支援事業所の施設長として現場に携わる。現在は大学教員として、保育現場で活用可能な障害児への実践的アプローチの研究している。			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	10 %	社会の動きに関心を持ち学び続ける力	10 %
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	10 %
	他者と関わる力	20 %	専門的知識・技術	40 %

## 2026年度 講義要綱

科 目	子どもの理解と援助 必修 講義		講 師	鴫田 陽介
授業概要	様々な児童福祉施設で生活する子ども達の様子、現状を学ぶ中で、子どもの「発達」を捉える視点を養う。子どもの健やかな発達に必要な「環境」と「関わり」について理解を深め、その担い手になるための準備を進める。			
授業目標	1. 保育実践において、実態に応じた子ども一人一人の心身の発達や学びを把握することの意義について理解する。 2. 子どもの体験や学びの過程において、子どもを理解する上での基本的な考え方を理解する。 3. 子どもを理解するための具体的な方法を理解する。 4. 子どもの理解に基づく保育士の援助や態度の基本について理解する			
到達目標1	子どもの育ちを支える児童福祉施設について、主要施設の概要や現状について説明できる	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	講義内容に関する筆記試験(40点)	
到達目標2	子どもの育ちを支える児童福祉施設への興味を養い、担い手となる自分をイメージし、自らに必要な準備を進めることができる	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み姿勢(20点)、講義内容に関するレポート試験(40点)	
授業方法	ワークシートを用いた講義			
授業計画	1 オリエンテーション:「子どもの理解とは？」(授業概要・目標・評価・持物等の説明) 2 子どもの育ちを支える現場を知る 3 子どもの育ちを支える現場①:乳児院 4 子どもの育ちを支えるために必要なこと①:乳児院の現場から 5 子どもの育ちを支える現場②:児童養護施設 6 産学連携週 7 子どもの育ちを支えるために必要なこと②:児童養護施設の現場から 8 子どもの育ちを支える現場③:母子生活支援施設 9 子どもの育ちを支えるために必要なこと③:母子生活支援施設の現場から 10 子どもの育ちを支える現場④:障害児入所施設 11 子どもの育ちを支える現場⑤:障害児通所施設 12 産学連携週 13 生涯にわたる支援の現場:障害者入所施設/通所施設 14 「理解と援助」のために:障害者支援施設の現場から 15 学期末試験			
必須テキスト				
参考文献	授業中に適宜紹介する			
担当教員の専門分野等	実務経験のある教員による授業。児童養護施設・発達障害児支援施設での勤務経験あり。			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	30 %	社会の動きに関心を持ち学び続ける力	20 %
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	10 %
	他者と関わる力	10 %	専門的知識・技術	20 %

## 2026年度 講義要綱

科 目	子どもの保健 必修 講義	講 師	中村 直美	
授業概要	①子どもの身体の発育、発達の基本を学ぶ。②子ども特有の身体症状や病気について学ぶ。 上記①②の知識を踏まえて 子どもの心身の健康の維持、増進の方法や現状と課題について考えていく。			
授業目標	1. 子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解する。 2. 子どもの身体的な発育・発達と保健について理解する。 3. 子どもの心身の健康状態とその把握の方法について理解する。 4. 子どもの疾病とその予防法及び他職種間の連携・協働の下での適切な対応について理解する。			
到達目標1	1.子どもの身体発育、発達の基本、子ども特有の身体症状や病気の基本を知り、それを踏まえた保育の中での保健的対応について、具体的に説明できる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度、課題提出(20点)講義内容に関する筆記試験(30点)	
到達目標2	2.子ども特有の健康に関する問題、課題を知り健康の維持、増進について関心を持つことができる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度、課題提出(20点)講義内容に関する筆記試験(30点)	
授業方法	1, パワーポイントを使用した講義形式 2, 事例ワーク等を通して保育所での保健活動の実際等を紹介			
授業計画	1 オリエンテーション(この授業で学ぶこと、授業のすすめかた等について) 2 健康の概念について 3 子どもの身体発育の特徴について 4 子どもの運動機能の発育、原始反射について 5 新生児の理解と特徴的な病気について 6 子どもの身体機能と発達の理解、特徴的な病気① 7 子どもの身体機能と発達の理解、特徴的な病気② 8 現場連携週・「健康だな」と感じた園児の様子を教えてください。 9 子どもの身体機能と発達の理解、特徴的な病気③ 10 子どもの身体機能と発達の理解、特徴的な病気④ 11 子どもの身体機能と発達の理解、特徴的な病気⑤ 12 現場連携週 ・保育者は子どもたちに対してどのような暑さ対策(熱中症対策)をしていましたか。 13 子どもの健康状態の観察とよみられる症状について 14 現代社会における子どもの健康に関する現状と課題について 15 試験・まとめ			
必須テキスト	改定1版 最新 保育士養成講座 第7巻 「子どもの健康と安全」			
参考文献	授業中に紹介、適宜プリントにして配布予定。			
担当教員の専門分野等	「実務経験のある教員による授業」に該当。専門は「小児看護」「社会福祉施設等(保育所、高齢者施設等)における感染症対応」長年、医療機関、保育所、保健所にて勤務。			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	20 %	社会の動きに関心を持ち 学び続ける力	10 %
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	10 %
	他者と関わる力	10 %	専門的知識・技術	40 %

2026年度 講義要綱

科目	子どもの保健 必修 講義	講師	竹内 麻貴	
授業概要	1. 子どもの健康の定義や保健の意義を理解する。 2. 子どもの生理的解剖および機能を学び、子どもの健康維持に必要な身体的知識を理解する。 3. 子どもの心身の発達について基礎的な知識を理解する。			
授業目標	1. 子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解する。 2. 子どもの身体的な発育・発達と保健について理解する。 3. 子どもの心身の健康状態とその把握の方法について理解する。 4. 子どもの疾病とその予防法及び他職種間の連携・協働の下での適切な対応について理解する。			
到達目標1	1. 子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解できる。 2. 子どもの身体的な発育・発達と保健について理解できる。 3. 子どもの心身の健康状態とその把握の方法について理解できる。 4. 子どもの疾病とその予防法及び他職種間の連携・協働の下での適切な対応について理解できる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	筆記試験50点	
到達目標2	1. 子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解できる。 2. 子どもの疾病とその予防法及び他職種間の連携・協働の下での適切な対応について理解できる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	提出物(課題、リアクションペーパーなど)40点 授業参加態度(授業態度やグループワーク参加態度など)10点	
授業方法	1. パワーポイントや図、グループワークなども取り入れ、内容の理解につなげ、学生と考えながら学ぶ授業構成とする。 2. 保育士、保護者、見などのあらゆる立場から健康を理解するような方法を取り入れる。 3. 興味を持ちながら更に理解できるように看護師及び子育ての体験談、社会報道の紹介等の工夫を行う。			
授業計画	<p>1 オリエンテーション、定義 ・心身の健康の定義と保健の意義、学ぶ必要性を理解する。 ・自己紹介</p> <p>2 人体の恒常性について ・母体の妊娠～出産までの経過および、新生児の特徴を学び理解する。 ・胎児期～出生時の障害児を学ぶ。</p> <p>3 人体の造り(構造)と働き ・体のつくりを知る ・臓器などの働きを知る</p> <p>4 発育の特徴・脳の発育 ・身体発育・運動機能発育の特徴を学び、理解する。 ・脳神経系の生理的機能と発達および疾患について学ぶ。 ・脳、神経、原始反射など。</p> <p>5 子どもの病気の特徴 子どもの循環器系について ・子どもが病気になった時、体調不良の表現方法や知らせ方など子どもならではの特徴を学び、理解する。 ・循環器系の生理的機能と発達および疾患 ・心臓、血管、血液、脈拍、血圧など。</p> <p>6 子どもの呼吸器系について ・呼吸器系の生理的機能と発達および疾患について学ぶ。 ・肺、呼吸のしくみ、上気道炎、SIDSなど。</p> <p>7 子どもの消化器系について ・消化器系の生理的機能と発達および疾患について学ぶ。 ・胃、腸、胃腸炎、下痢など。</p> <p>8 現場連携週 課題を提出する</p> <p>9 子どもの睡眠とホルモンについて ・睡眠とホルモンの関係を知る ・成長と睡眠の大切さを知る</p> <p>10 子どもの感覚器系について(1) ・感覚器系の生理的機能と発達および疾患について学ぶ。 ・目、鼻、口、耳、触覚などの感覚器。</p> <p>11 子どもの感覚器系について(2) ・感覚器系の生理的機能と発達および疾患について学ぶ。 ・目、鼻、口、耳、触覚などの感覚器。</p> <p>12 現場連携週 課題を提出する</p> <p>13 子どもの腫瘍などについて・悪性腫瘍、障害など。</p> <p>14 医療と保育士について・院内保育、病棟保育士など</p> <p>15 定期試験</p>			
必須テキスト	『子どもの保健と安全』高内正子、教育情報出版			
参考文献	授業中に紹介および適宜プリントや資料を配布。			
担当教員の専門分野等	国立行政機構京都医療センターにて看護師勤務。(産婦人科、外科など)。 取得資格・看護師、介護福祉士、ケアマネージャー、医療的ケア教員資格取得。 出産後、小児科クリニック看護師業務。 看護業務と共に、大学、短大など兼任講師を行う。 テキスト『子どもの保健と安全・第5章』執筆。 女性の家事・育児と言う視点で国際女性会議にて講演を行う。 子育て支援コミュニティ「KiraKira」発行。母子支援NPO「SKIP」を設立。託児付きクラシックコンサート企画運営、子育て本出版、TV出演等の活動を行う。			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	10 %	社会の動きに関心を持ち 学び続ける力	5 %
	社会人としての基本	5 %	主体性 素直 思いやり	10 %
	他者と関わる力	10 %	専門的知識・技術	60 %

## 2026年度 講義要綱

科 目	子どもの食と栄養 必修 講義	講 師	黒須 友里愛	
授業概要	栄養に関する基礎知識を身につけ、子どもの発育・発達に必要な栄養、および成人の栄養について学び、自身の食生活についても考える力を養う。 また、保育の現場で重要な食育について学ぶ。児童福祉施設や家庭での食と栄養、食の安全、疾患のときの食と栄養、肥満ややせの子どもの食と栄養、障がいのある子どもの食と栄養についても学習する。			
授業目標	1. 健康な生活の基本としての食生活の意義や栄養に関する基本的知識を習得する。 2. 子どもの発育・発達と食生活の関連について理解する。 3. 養護及び教育の一体性を踏まえた保育における食育の意義・目的、基本的考え方、その内容等について理解する。 4. 家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題について理解する。 5. 関連するガイドライン(※)や近年のデータ等を踏まえ、特別な配慮を要する子どもの食と栄養について理解する。 ※「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」(平成23年3月、厚生労働省)、「保育所における食事の提供ガイドライン」(平成24年3月、厚生労働省)等			
到達目標1	栄養の基礎的な知識を身に付けることができる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	配布プリントの提出(30点)、定期テスト(20点)	
到達目標2	子どもたちをとりまく環境について考え、子どもの食生活の現状と課題について理解できる。保育所における食育について理解できる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	グループディスカッションを行い、課題と改善方法について考える。(20点)、定期テスト(30点)	
授業方法	講義および演習を配布プリントに書き込みながら行う。			
授業計画	1 子どもの健康と食生活の意義(子どもを取り巻く環境、子どもの食生活の現状と課題) 2 栄養に関する基本的知識① 栄養の基本的概念と栄養素の種類と機能 3 栄養に関する基本的知識② 消化と吸収、栄養素の代謝 4 栄養に関する基本的知識③ 栄養バランスのとれた食事、調理の基本 5 発育・発達と食生活① 小児期の発育と発達、妊娠・授乳期の栄養 6 発育・発達と食生活② 乳児期の栄養(乳汁栄養・離乳栄養) 7 発育・発達と食生活③ 幼児期・学童期の食生活、生涯発達と食生活 8 産学連携 9 産学連携振り返り 食育の基本 10 児童福祉施設や家庭における食事と栄養 11 食の安全(食中毒) 12 産学連携 13 産学連携振り返り 特別な配慮を要する子どもの食と栄養① 体調不良および疾病の子どもへの対応 14 特別な配慮を要する子どもの食と栄養② 食物アレルギーのある子ども、障がいのある子どもへの対応 15 定期試験			
必須テキスト	今津屋直子・久藤麻子編著 新・子どもの食と栄養(第2版)教育情報出版 2025			
参考文献				
担当教員の 専門分野等	食品機能学			
この授業で 身につく 「6つの力」	職業に対する理解	20 %	社会の動きに関心を持ち 学び続ける力	10 %
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	10 %
	他者と関わる力	10 %	専門的知識・技術	40 %

## 2026年度 講義要綱

科 目	子どもの食と栄養 必修 講義		講 師	海和 美咲
授業概要	子どもの発育・発達と食生活の関係について理解し、保育現場における栄養の基礎を学ぶ。食事摂取基準、離乳食、アレルギー対応、食環境づくりなど、実践につながる知識を身につける。			
授業目標	1. 子どもの発育・発達と栄養の関係を説明できる。 2. 年齢に応じた食事内容・支援方法を理解できる。 3. 保育現場に必要な食育・安全管理(アレルギー等)を説明できる。 4. 子どもの食に関する課題に対して適切な対応を考えられる。			
到達目標1	栄養に関する基礎知識と子どもの発育・発達の関係について理解できる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	小テスト(20点)、定期テスト(30点)	
到達目標2	子どもの食の問題および保育所における食育について理解できる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	レポート、課題提出(50点)	
授業方法	動画視聴＋小テストやレポート提出を組み合わせる。			
授業計画	1 子どもの発育・発達と栄養の関わり 2 栄養に関する基礎知識 3 子どもの食生活と健康、食事摂取基準の活用 4 家庭や児童福祉施設における食事と栄養 5 妊娠期・授乳期の発育発達と栄養 6 離乳期の発育発達と栄養 7 現場連携週① 8 幼児期の発育発達と栄養 9 子どもの食生活の現状と課題 10 食育の意義と目的 11 現場連携週② 12 食育の計画と実施 13 学童期・思春期の発育発達と栄養 14 アレルギー疾患をもつ子どもへの配慮 15 定期試験			
必須テキスト				
参考文献	太田百合子・堤ちはる編著 子どもの食と栄養 第2版 羊土社 小川雄二編著 子どもの食と栄養演習 第6版 建帛社			
担当教員の 専門分野等				
この授業で 身につく 「6つの力」	職業に対する理解	20 %	社会の動きに関心を持ち 学び続ける力	20 %
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	10 %
	他者と関わる力	10 %	専門的知識・技術	30 %

## 2026年度 講義要綱

科 目	必修 保育の計画と評価 講義		講 師	廣瀬 優貴
授業概要	保育における計画の意義・目的を学ぶ 子ども理解を基に保育過程(計画・実践・記録・省察・評価・改善)を学ぶ 指導計画の実際について学ぶ			
授業目標	1. 保育の内容の充実と質の向上に資する保育の計画及び評価について理解する。 2. 全体的な計画と指導計画の作成について、その意義と方法を理解する。 3. 子どもの理解に基づく保育の過程(計画・実践・記録・省察・評価・改善)について、その全体構造を捉え、理解する。			
到達目標1	質の高い保育実践のための保育の計画及び評価について理解することができる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	リアクションペーパー(20点) 小テスト(30点)	
到達目標2	全体的な計画と指導計画について、意義と方法を理解し、作成することができる	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	リアクションペーパー(20点) 計画の作成(30点)	
授業方法	講義形式、指導計画の作成			
授業計画	1 乳幼児期における保育の基本と計画 2 なぜ保育に計画が必要なのか 3 保育における計画の種類と意義 / 「指針」「要領」「教育・保育要領」とは何か 4 指導計画作成の手続き 5 全体的な計画の作成 6 長期指導計画の作成 7 短期指導計画の作成 8 現場連携集 9 乳児の指導計画の作成事例と展開 10 幼児の指導計画の作成事例と展開 11 小学校との接続を意識した指導計画と展開 12 現場連携 13 保育の省察および記録とカンファレンス 14 保育所・幼稚園・認定こども園の評価の仕組み / 指導計画作成について 15 指導計画作成			
必須テキスト	『MINERVはじめて学ぶ保育④保育の計画と評価』ミネルヴァ書房			
参考文献	『マンガでわかる保育所保育指針』中央法規出版 『保育所保育指針』			
担当教員の 専門分野等	実務経験のある教員による授業。長年保育所で勤務。			
この授業で 身につく 「6つの力」	職業に対する理解	20 %	社会の動きに関心を持ち 学び続ける力	10 %
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	10 %
	他者と関わる力	10 %	専門的知識・技術	40 %

## 2026年度 講義要綱

科 目	必修 保育の計画と評価 講義	講 師	中山 利彦	
授業概要	保育所保育指針と同解説を用いながら、保育の計画と評価について、その意義と実際の運用について講義を聴き、保育士として理解し習得すべきことを重点的に学んでいく。その際、保育理論に関わる部分も同時に履修する。			
授業目標	1. 保育の全体的な計画及び指導計画を立案作成する意義とその運用を理解する。 2. 全体的な計画に基づく長期・短期の指導計画の作成及び評価の仕方について実際の作成事例を参照しながら、計画及び評価についてどのような点に留意しなければならないのかを理解し、その方法を身につける。			
到達目標1	1. 毎回の授業において習得したことを文字等で表現できる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み姿勢(20点)、授業において学んだことに関するレポート(30点)	
到達目標2	2. 毎回の授業において習得した内容を質問や意見を通して深めながら保育の計画と評価の全体像をイメージできる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	授業への貢献度(20点)、授業内容に関する質問や自己意見のレポート(30点)	
授業方法	1. 保育所保育指針と同解説を用いながら、保育の計画と評価の意義と実践について座学形式で学ぶ。 2. 授業内で用いるテキストを学生が音読したり授業内容に関する質問事項に答えたりしながら履修内容を確認する。実際の保育の計画や評価様式から計画の立て方や評価の仕方を実感する。			
授業計画	<p>1 ・なぜ保育の計画と評価について学ぶのか。 ・見守る保育の三省について。 ・シラバスの解説。 ・「見守る保育」の読み合わせ。</p> <p>2 ・保育とはそもそも何をすることか。 ・保育所保育の目標。 ・子どもの最善の利益、他。 ・「見守る保育」の読み合わせ。</p> <p>3 ・保育とはそもそも何をすることか。 ・児童福祉法、こども基本法、子どもの権利条約他。 ・「見守る保育」の読み合わせ。</p> <p>4 ・人的環境、物的環境、空間的環境及び養護と教育の一体性について。 ・「見守る保育」の読み合わせ。</p> <p>5 ・保育の方法ー子どもの主体、子ども相互の関係づくり、他。 ・「見守る保育」の読み合わせ。</p> <p>6 ・計画性のある保育を実践することの意義。子どもの発達。 「見守る保育」の読み合わせ。</p> <p>7 ・指導計画の大元となる「全体的な計画」がどういう意味でつくられているのか。 ・「見守る保育」の読み合わせ。</p> <p>8 ・環境 ・子どもの姿</p> <p>9 ・長期的な指導計画と短期的な指導計画を作成する。3歳未満児の個別指導計画。 ・「見守る保育」の読み合わせ。</p> <p>10 ・実際の子どもの姿に基づいて。保育士が一方向的に与える計画ではない指導計画。 ・「見守る保育」の読み合わせ。</p> <p>11 ・子どもの主体的な活動を促す保育士等による多様な援助計画 ・「見守る保育」の読み合わせ。</p> <p>12 ・保育者の姿 ・子どもと保育者の関わり</p> <p>13 ・自ら保育実践を振り返り、自己評価をすること。 ・「見守る保育」の読み合わせ。</p> <p>14 ・職員相互の話し合い等を通じて、専門性の向上及び保育の質の向上のための評価。 ・「見守る保育」の読み合わせ。</p> <p>15 ・評価を踏まえた計画の改善。 ・「見守る保育」の読み合わせ。</p>			
必須テキスト	『保育所保育指針解説』(平成30年3月厚生労働省編)藤森平司著『見守る保育』(学研)			
参考文献	平成29年告示保育所保育指針、公益社団法人全国私立保育連盟編『コミックで発信★保育に活かす子どもの権利条約』(エイデル研究所)			
担当教員の専門分野等	25年間認可保育園、認定こども園にて園長・副園長として現場勤務。保育者等の管理者であると同時に、子どもの権利条約、保育所保育指針に沿った保育現場での実践をサポートしてきた。現在、新宿せいが子ども園副園長、東京都福祉サービス評価推進機構評価者、他歴任。			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	30 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10 %
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	10 %
	他者と関わる力	20 %	専門的知識・技術	20 %

## 2026年度 講義要綱

科 目	保育内容総論 必修 講義	講 師	遠藤 祐太郎	
授業概要	保育現場で必要とされる保育内容の基本的知識を学ぶ。 現代の保育を事例にし、保育士の役割、専門的知識、子どもの発達について理解を深める。			
授業目標	1. 保育所保育指針における「保育の目標」「育みたい資質、能力」「幼児期の終わりまで育ってほしい姿」と「保育の内容」の関連を理解する。 2. 保育所保育指針の各章の繋がりを読み取り、保育の全体的な構造を理解する。 3. 子どもの発達や生活を取り巻く社会的背景及び保育の内容の歴史の変遷等を踏まえ、保育の内容の基本的な考え方を、子どもの発達や実態に即した具体的な保育の過程(計画、実践、記録、省察、評価、改善)につなげて理解する。 4. 保育の多様な展開について具体的に理解する。			
到達目標1	保育内容について基本的な知識を理解し、柔軟に活用することができる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業内課題 50	
到達目標2	ディスカッションやグループワークを生かし、保育士の専門的知識、子どもの発達、特徴など具体的なことを理解し、説明することができる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	振り返りシート	
授業方法	講義			
授業計画	1 オリエンテーション 授業の進め方 保育内容とは 2 保育環境 保育者の役割 3 乳児クラスについて(0歳児) 4 乳児クラスについて(1歳児) 5 乳児クラスについて(2歳児) 6 幼児クラスについて(3歳児) 7 現場連携週 8 幼児クラスについて(4歳児) 9 幼児クラスについて(5歳児) 10 学童保育(小学生) 11 現場連携 12 海外の保育 13 海外の保育② 14 保育者の姿 15 まとめ、振り返り			
必須テキスト	なし			
参考文献	保育所保育指針、保育内容総論			
担当教員の 専門分野等	デンマークと日本の保育園に勤務。0歳児から小学生までの保育を経験。保護者とカウンセリングを積極的に行う。			
この授業で 身につく 「6つの力」	職業に対する理解	20 %	社会の動きに関心を持ち 学び続ける力	10 %
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	20 %
	他者と関わる力	20 %	専門的知識・技術	20 %

## 2026年度 講義要綱

科 目	保育内容総論 必修 講義	講 師	大河 英美	
授業概要	子どもを理解し、成長、発達に望ましい関わりができるよう、一人ひとりの育ちを把握し、柔軟な対応力を養う。			
授業目標	各年齢の発達過程を学び、保育内容や導入、その展開方法を学び理解する。			
到達目標1	自己理解を深め、目標に向かって主体的に取り組むとともに、他者との関わりを通して信頼関係を築くことができる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	出席率、自主的な関わり、50点	
到達目標2	専門的知識や知見を習得し、柔軟に活用することができる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	他者との協力、グループ制作、50点	
授業方法	グループワーク、ディスカッションなど、コミュニケーションを大切にした授業。			
授業計画	1 オリエンテーション 2 年齢別の育ちを考える(教育)① 3 年齢別の育ちを考える(教育)② 4 年齢別の育ちを考える(養護)① 5 年齢別の育ちを考える(養護)② 6 産学連携 7 年齢別の環境を設定する① 8 年齢別の環境を設定する② 9 年齢別の遊びを考える① 10 年齢別の遊びを考える② 11 グループ資料まとめ 12 産学連携 13 グループ発表準備 14 グループ資料まとめ発表① 15 グループ資料まとめ発表②			
必須テキスト	必要時にteamsに資料格納いたします。			
参考文献	保育所保育指針			
担当教員の専門分野等	実務経験ありの教員による授業。幼稚園教諭、障害児保育、認可、認証保育園など様々な現場で勤務し、2020年まで株式会社の保育園で園長として勤務。株式会社の本社で保育運営担当の責任者、研修、監査、園長指導、運営指導に携わり、現在は採用部部長として勤務している。			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	10 %	社会の動きに関心を持ち 学び続ける力	10 %
	社会人としての基本	20 %	主体性 素直 思いやり	20 %
	他者と関わる力	30 %	専門的知識・技術	10 %

## 2026年度 講義要綱

科 目	保育内容の理解と方法・音楽遊び I		必修 講義	講 師	上田 亜津子、木下 裕子、佐藤 季里、鈴木 真智子、渡辺 容子
授業概要	子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境にも目を向け、子どもの生活と遊びを豊かに展開するための音楽表現の基礎を学び、感じたことや考えたことを自主的に表現できる力を養う。歌遊びのグループレッスンを45分、ピアノ等の個人レッスンを45分、グループ分けに従って教室を移動して受講する。				
授業目標	1. 子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境等と保育所保育指針に示される保育の内容を理解した上で、子どもの生活と遊びを豊かに展開するために必要な音楽的知識や技術を実践的に習得する。 2. 保育現場で活用できる教材を中心に、保育の環境の構成及び具体的展開のための技術を実践的に習得する。				
到達目標1	・教科書に沿って鍵盤楽器(ピアノ等)の基礎を学びつつ自主練習を行い、予習復習したうえで個人レッスンに臨むことが出来る。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	個人レッスンと自主練習への取り組み度(20点)、実技試験発表(30点)		
到達目標2	様々な子どもの歌を演習し互いに聞き合い、自信を持って伝えたいことが表現出来る。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	グループ演習への積極的参加度(20点)、実技試験発表(30点)		
授業方法	クラスを2つのグループに分け、45分ずつ教室を入れ替わり、ピアノを中心とした個人レッスンと歌遊びのグループレッスンをを行う。グループ分けは学生ポータルで発表されるので、各自確認すること。				
授業計画	<p>1 前・後半に分かれて各教室でのオリエンテーション。(A) (B)2グループに分かれて45分で入れ替わる)</p> <p>2 (A)ピアノ等による個人レッスン／(B)歌遊びのグループレッスン。以下の項目について学生の状況に合わせて複合的に盛り込み進めていく。</p> <p>3 (A)ピアノ等による個人レッスン／(B)保育士に必要な音楽基礎知識(五線紙は授業内で配布する。)</p> <p>4 (A)ピアノ等による個人レッスン／(B)現場で役立つ声の出し方(呼吸法・発声法)</p> <p>5 (A)ピアノ等による個人レッスン／(B)子どもの歌の持つ役割や意義を考察する。</p> <p>6 (A)ピアノ等による個人レッスン／(B)童謡・唱歌等の子どもの歌の演習</p> <p>7 (A)ピアノ等による個人レッスン／(B)わらべ歌・手遊び歌の演習</p> <p>8 産学連携第8週課題:手遊びやわらべ歌、リズム遊びや子どもの歌等、音楽遊びは現場でどのように活用されていましたか?またピアノやリズム楽器、その他の音楽遊びの環境はどのように設定されていたか、教えてください。</p> <p>9 (A)ピアノ等による個人レッスン／(B)簡単な2声のハーモニー(共働作業を楽しむ)</p> <p>10 (A)ピアノ等による個人レッスン／(B)リリックを含む歌遊びの演習</p> <p>11 (A)ピアノ等による個人レッスン／(B)互いに聞き合い、協力してより良い表現を目指す。</p> <p>12 産学連携第12週目課題:保育者が子どもの歌やリズム遊び、わらべ歌等を用いて子どもたちと関わるシーンがありましたか?その働きかけによって子どもたちの心や行動はどのように変化しましたか?感じたことを教えてください。また、そのようなシーンに出会わなかった方は、自分が取り扱いたい曲名1曲と、どんな時に、どんなねらいで用いたいかを書きましょう。</p> <p>13 (A)ピアノ等による個人レッスン／(B)個人レッスンによる苦手克服のためのアドバイス。</p> <p>14 実技試験に向けてのリハーサルと個別指導 (A) (B)共)</p> <p>15 実技試験(発表会)と各自の振り返り(A)(B)共)</p>				
必須テキスト	『現場で役立つ幼稚園教諭・保育士の為のピアノ入門』ドレミ出版 『ポケットいっぱい』教育芸術社				
参考文献	『はじめての弾き歌い』日本児童教育専門学校編				
担当教員の専門分野等	専任:木下裕子 東京藝術大学卒業。公財日本オペラ振興会育成部第6期修了。声楽、ピアノ、合唱指導、リミック指導。				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	10 %	社会の動きに関心を持ち 学び続ける力	10 %	
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	15 %	
	他者と関わる力	15 %	専門的知識・技術	40 %	

## 2026年度 講義要綱

科 目	保育内容の理解と方法・音楽遊び I		必修 講義	講 師	木下 裕子、鈴木 真智子、高橋 裕希子、竹田 えり
授業概要	子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境にも目を向け、子どもの生活と遊びを豊かに展開するための音楽表現の基礎を学び、感じたことや考えたことを自主的に表現できる力を養う。歌遊びのグループレッスンを45分、ピアノ等の個人レッスンを45分、グループ分けに従って教室を移動して受講する。				
授業目標	1. 子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境等と保育所保育指針に示される保育の内容を理解した上で、子どもの生活と遊びを豊かに展開するために必要な音楽的知識や技術を実践的に習得する。 2. 保育現場で活用できる教材を中心に、保育の環境の構成及び具体的展開のための技術を実践的に習得する。				
到達目標1	教科書に沿って鍵盤楽器(ピアノ等)の基礎を学びつつ自主練習を行い、予習復習したうえで個人レッスンに臨むことができる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	個人レッスンと自主練習への取り組み度(20点)、実技試験発表(30点)		
到達目標2	様々な子どもの歌を演習し互いに聞き合い、自信を持って伝えたいことが表現出来る。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	グループ演習への積極的参加度(20点)、実技試験発表(30点)		
授業方法	クラスを2つのグループに分け、45分ずつ教室を入れ替わり、ピアノを中心とした個人レッスンと歌遊びのグループレッスンをを行う。グループ分けは学生ポータルで発表されるので、各自確認すること。またオンラインの個人レッスンでは画面に鍵盤と手元を映すよう工夫すること。				
授業計画	<p>1 前・後半に分かれて各教室でのオリエンテーション。(A) (B)2グループに分かれて45分で入れ替わる)</p> <p>2 (A)ピアノ等による個人レッスン/(B)歌遊びのグループレッスン。以下の項目について学生の状況に合わせて複合的に盛り込み進めていく。</p> <p>3 (A)ピアノ等による個人レッスン/(B)保育士に必要な音楽基礎知識(五線紙は授業内で配布する。)</p> <p>4 (A)ピアノ等による個人レッスン/(B)現場で役立つ声の出し方(呼吸法・発声法)</p> <p>5 (A)ピアノ等による個人レッスン/(B)子どもの歌の持つ役割や意義を考察する。</p> <p>6 (A)ピアノ等による個人レッスン/(B)童謡・唱歌等の子どもの歌の演習</p> <p>7 (A)ピアノ等による個人レッスン/(B)わらべ歌・手遊び歌の演習</p> <p>8 産学連携第8週課題:手遊びやわらべ歌、リズム遊びや子どもの歌等、音楽遊びは現場でどのように活用されていきましたか?またピアノやリズム楽器、その他の音楽遊びの環境はどのように設定されていたか、教えてください。</p> <p>9 (A)ピアノ等による個人レッスン/(B)簡単な2声のハーモニー(共働作業を楽しむ)</p> <p>10 (A)ピアノ等による個人レッスン/(B)リリックを含む歌遊びの演習</p> <p>11 (A)ピアノ等による個人レッスン/(B)互いに聞き合い、協力してより良い表現を目指す。</p> <p>12 産学連携第12週目課題:保育者が子どもの歌やリズム遊び、わらべ歌等を用いて子どもたちと関わるシーンはありましたか?その働きかけによって子どもたちの心や行動はどのように変化しましたか?感じたことを教えてください。また、そのようなシーンに出会わなかった方は、自分が取り扱いたい曲名1曲と、どんな時に、どんなねらいで用いたいかを書きましょう。</p> <p>13 (A)ピアノ等による個人レッスン/(B)個人レッスンによる苦手克服のためのアドバイス。</p> <p>14 実技試験に向けてのリハーサルと個別指導 (A) (B)共)</p> <p>15 実技試験(発表会)と各自の振り返り(A)(B)共)</p>				
必須テキスト	『現場で役立つ幼稚園教諭・保育士の為のピアノ入門』ドレミ出版 『ポケットいっぱいの子』教育芸術社				
参考文献	『はじめての弾き歌い』日本児童教育専門学校編				
担当教員の専門分野等	専任:木下裕子 東京藝術大学卒業。公財日本オペラ振興会育成部第6期修了。声楽、ピアノ、合唱指導、リリック指導。				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	10 %	社会の動きに関心を持ち学び続ける力	10 %	
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	15 %	
	他者と関わる力	15 %	専門的知識・技術	40 %	

## 2026年度 講義要綱

科目	保育内容の理解と方法・造形遊び I	必修 講義	講師	三浦 燃
授業概要	保育に必要な「造形」に関する理解を深め、表現技術も併せて習得する。また作品制作を通して、自由な表現力を身に付ける。特に「子どもの遊び」を要とし、自らも造形活動を楽しむ心を持つ。			
授業目標	1. 子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境等と保育所保育指針に示される保育の内容を理解した上で、子どもの生活と遊びを「豊かに展開する」ために必要な知識や技術を実践的に習得する。 2. 保育における「教材等の活用及び作成」と、保育の環境の構成及び具体的展開のための「技術」を実践的に習得する。			
到達目標1	授業内容を理解し、課題制作ができる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	課題に沿った完成作品 (常識的に考えて課題に対し相応しくない場合、評価不可) (45点 創意工夫5点)	
到達目標2	将来、子どもの遊びを援助するため、幼児の絵画などを理解し、技術を習得、実践できる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	①課題作品を撮影し、作品の工夫等についてのコメントと共に、締切厳守でTeamsにアップ (40点) ②グループワーク等での周囲との協力 (5点) ③制作後の清掃、片付け等の社会的マナーと 課題提	
授業方法	1.実技 2.座学 (基本毎回課題提出) * 社会情勢や進行状況により内容や順番を適宜変更			
授業計画	1 4/11前提講義:講師挨拶、授業受講のルール、材料配布等 こいのぼり制作 2 4/18こすり出し(フロッタージュ)による制作 ブレンデッド 【事前準備】凸凹探し 3 4/25デカルコマニーによる制作 4 5/9講義1)児童画特徴について:プリントあり ブレンデッド 5 5/16自然物(草花)を用いた制作(天候を考え、時期や内容の変更もあり) 6 5/23○△□を組み合わせた制作 ブレンデッド 【事前準備】円形のもの(コップ等) 7 5/30紙コップを用いた工作 8 6/6産学連携(現場連携) 9 6/13色の基本、貼り絵制作 ブレンデッド(第13回用に材料をとっておく) 10 6/20にじみ絵、はじき絵制作 11 6/27(講義2)幼児画の発達段階について:記入プリントあり ブレンデッド 12 7/4産学連携(現場連携) 13 7/11紙の加工、ハサミの使い方【事前準備】第9回「ちぎり絵」で使用した色紙の残り ブレンデッド 14 7/18クレヨンを用いたひっかき絵制作 15 スタンプを使った制作 まとめ			
必須テキスト				
参考文献				
担当教員の専門分野等	三浦:実務経験のある教員による授業に該当。保育士、子ども造形教室講師経験有り			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	15%	社会の動きに関心を持ち 学び続ける力	10%
	社会人としての基本	15%	主体性 素直 思いやり	10%
	他者と関わる力	10%	専門的知識・技術	40%

## 2026年度 講義要綱

科 目	保育内容の理解と方法・造形遊び I		必修 講義	講 師	加藤 ふじこ
授業概要	保育に必要な「造形」に関する理解を深め、表現技術も併せて習得する。そして作品製作を通して、自由な表現力を身に付ける。特に「子どもの遊び」をかなめとし、自らも造形活動を楽しむ心を持つ。				
授業目標	1. 子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境等と保育所保育指針に示される保育の内容を理解した上で、子どもの生活と遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を実践的に習得する。 2. 保育における教材等の活用及び作成と、保育の環境の構成及び具体的展開のための技術を実践的に習得する。				
到達目標1	授業に参加し、理解する。そして授業時間内に制作できる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)		授業への参加姿勢、取り組んだ内容、回数で評価。 (常識的に考えて相応しくない受講態度の場合、評価できない) 45点+創意工夫5点	
到達目標2	将来、子どもの遊びを援助するため、幼児の絵画を理解し、造形技術を習得、実践できる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)		作品提出(作品を撮影しteamsに画像を提出、提出回数やコメント、締切日厳守で評価) 45点+その他 ①グループワーク等での周囲との協力 ②制作後の清掃・片付け等の社会的マナー ③期日までの課題提出、課題提出状況等の自己管理能力等 5点	
授業方法	1実技2座学(基本毎回課題提出) 社会情勢や進行状況により内容や順番を適宜変更				
授業計画	1 前提講義:こいのぼりの制作、講師挨拶、授業受講のルール、線、点、円の練習、提出課題:こいのぼり 2 フロッタージュを用いた制作、提出課題:凸凹を映し取った作品 3 デカルコマニーを用いた制作、提出課題:デカルコマニーで制作した作品 4 <講義1>幼児画特徴について:記入プリント:HB*提出課題:プリントの一部写真 5 自然物(草花)を用いた制作(天候を考え、授業の順を入れ替えることもある)、提出課題:制作した作品 6 ○△□を組み合わせた制作、提出課題:画用紙に○△□で構成した絵画作品 7 紙コップを用いた工作とそれを用いた遊び、提出課題:紙コップで作成した跳ねるカエル 8 現場連携週*造形の授業はないが、課題に回答して提出。 9 色の基本、貼り絵制作、提出課題:虹色をテーマにした貼り絵作品 10 にじみ絵、はじき絵制作*提出課題:コーヒーフィルターなどを使った作品 11 <講義2>幼児画の発達段階について:記入プリント、提出課題:プリントの一部写真 12 現場連携週*造形の授業はないが、課題に回答して提出。 13 紙の加工、ハサミの使い方、提出課題:ミックドリンク 14 クレヨンを用いたひっかき絵制作、提出課題:制作した作品全て 15 スタンプやビー玉転がしを使ったスイミーの世界の制作と魚釣り遊び、提出課題:制作した作品全て				
必須テキスト	特にありません。				
参考文献	適宜紹介する				
担当教員の 専門分野等	かとうふじこ、イラストレーター、絵本作り講師、 造形講師				
この授業で 身につく 「6つの力」	職業に対する理解	15 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10 %	
	社会人としての基本	15 %	主体性 素直 思いやり	10 %	
	他者と関わる力	10 %	専門的知識・技術	40 %	

## 2026年度 講義要綱

科 目	乳児保育 I	必修 講義	講 師	中村 直美
授業概要	乳児保育の意義、目的、歴史、役割等の基本を学び、乳児の成長、発達過程を学習します。また、その発達の姿を追いながら援助の方法や保育内容等の基本を学びます。			
授業目標	1. 乳児保育の意義・目的と歴史の変遷及び役割等について理解する。 2. 保育所、乳児院等多様な保育の場における乳児保育の現状と課題について理解する。 3. 3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育の内容と運営体制について理解する。 4. 乳児保育における職員間の連携・協働及び保護者や地域の関係機関との連携について理解する。 ※「乳児保育」とは、3歳未満児を念頭においた保育を示す。			
到達目標1	1, 乳児保育の意義や目的、歴史などの基本的な知識を知り具体的に説明できる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度、課題提出(20点)講義内容に関する筆記試験(30点)	
到達目標2	2, 乳児の成長、発達過程等を知り、保育の中でのその姿を想定しながら配慮事項などを具体的に説明できる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度、課題提出(20点)講義内容に関する筆記試験(30点)	
授業方法	1, パワーポイントを使用した講義 2, 乳児向けの手遊びや絵本、紙芝居の紹介			
授業計画	1 オリエンテーション(この授業で学ぶこと、授業のすすめかた等について) 2 乳児保育とは 3 乳児保育の歴史について 4 乳児保育を支える法律について(児童福祉法、児童福祉施設の設備及び運営に関する基準など) 5 乳児保育の基礎知識① 人間の赤ちゃんは無力なの？(ポルトマンの生理的早産と乳児の生得的な特性) 6 乳児保育の基礎知識② 愛着形成(ボウルビイの愛着理論) 7 保育所での愛着形成について、1～2か月、3～4か月児の発達の特徴 8 現場連携週・「乳児クラス(0. 1.2歳児)の保育室の扉にはどのような配慮がなされていましたか？」 9 5～6か月児の発達の特徴、乳児の睡眠について 10 7～8か月児の発達の特徴、SIDSについて 11 9～10か月児の発達の特徴 乳児の授乳について 12 現場連携週・「保育者は乳児にどのような言葉がけをしていましたか？」 13 11～12か月児の発達の特徴 乳児の離乳食について 14 1歳～1歳6か月児の発達の特徴 1歳6か月～3歳未満児の発達の特徴 15 試験・まとめ			
必須テキスト	「はじめて学ぶ 乳児保育」第四版 志村聡子編著者 同文書院			
参考文献	授業中に紹介、適宜プリントにして配布予定。			
担当教員の専門分野等	「実務経験のある教員による授業」に該当。専門は「小児看護」「社会福祉施設等(保育所、高齢者施設等)における感染症対応」長年、医療機関、保育所、保健所にて勤務。			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	30 %	社会の動きに関心を持ち 学び続ける力	10 %
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	10 %
	他者と関わる力	10 %	専門的知識・技術	30 %

## 2026年度 講義要綱

科 目	乳児保育 I		必修 講義	講 師	永島 さくら
授業概要	乳児保育の意義や目的について理解する。保育施設や乳児院等、様々な場における乳児保育の現状と課題を学ぶ。乳児期の発達特性や保育の基本的な役割について理解を深め、乳児の心身の成長を支える保育実践の基盤を構築するとともに、保護者や職員間の連携の重要性について学ぶ。				
授業目標	乳児保育の意義や目的を理解し、保育施設における乳児保育の現状と課題を把握する。乳児の発達特性や保育の基本的役割について学び、適切な保育実践の基盤を身につけるとともに、保護者や職員との連携の重要性を理解する。				
到達目標1	乳児保育の意義や目的を理解し、説明することができる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への参加態度、取り組み 20点、期末試験 30点		
到達目標2	乳児期の発達特性や保育の役割を理解し、説明することができる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	授業への参加態度、取り組み 20点、期末試験 30点		
授業方法	対面及びブレンド形式にて行う。必要に応じてグループワークやディスカッションを取り入れていく。				
授業計画	1 オリエンテーション、乳児保育とは何か 2 「保育所保育指針」における乳児保育の理念と概念 3 乳児保育の歴史 4 乳児保育の基礎知識1 5 乳児保育の基礎知識2 6 保育所・認定こども園における乳児保育1 7 保育所・認定こども園における乳児保育2 8 現場連携 9 現場連携課題のフィードバック、乳児保育の基礎知識3 10 乳児院における乳児保育 11 家庭的保育等における乳児保育、乳児保育が行われるその他の保育 12 現場連携 13 現場連携課題のフィードバック、子育て支援における乳児保育 14 保護者とのパートナーシップ 15 乳児保育の現状と課題、期末試験				
必須テキスト	松本峰雄監修『よくわかる！保育士エクササイズ5 乳児保育演習ブック[第2版]』ミネルヴァ書房				
参考文献	保育所保育指針				
担当教員の 専門分野等	「実務経験のある教員による授業」に該当。長年、保育施設で保育に携わる。現在は保育士専門学校の教員として勤務する傍ら、小規模保育施設や低年齢児の遊びに関する研究を行う。				
この授業で 身につく 「6つの力」	職業に対する理解	20 %	社会の動きに関心を持ち 学び続ける力	20 %	
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	10 %	
	他者と関わる力	10 %	専門的知識・技術	30 %	

## 2026年度 講義要綱

科 目	乳児保育Ⅱ		必修 講義	講 師	中村 直美
授業概要	乳児保育Ⅰで学んだ3歳未満児の発達過程を踏まえて、実際の保育の場での援助方法、関わり方等を実習室での実習や、対応ワーク等で演習しながら学ぶ。				
授業目標	1. 3歳未満児の発育・発達の過程や特性を踏まえた援助や関わりの基本的な考え方について理解する。 2. 養護及び教育の一体性を踏まえ、3歳未満児の子どもの生活や遊びと保育の方法及び環境について、具体的に理解する。 3. 乳児保育における配慮の実際について、具体的に理解する。 4. 上記1～3を踏まえ、乳児保育における計画の作成について、具体的に理解する。 ※「乳児保育」とは、3歳未満児を念頭においた保育を示す。				
到達目標1	1, 3歳未満児の発達過程やその特徴を理解し具体的に説明できる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度、課題提出(20点)講義内容に関する筆記試験(30点)		
到達目標2	2, 3歳未満児の日常生活の援助の方法がわかり実践できる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度、課題提出(20点)講義内容に関する筆記試験(30点)		
授業方法	1, パワーポイントを使用した講義 2, 実習室での実技演習				
授業計画	1 オリエンテーション(この授業で学ぶこと、授業のすすめかた等について) 身支度、抱っこ仕方、おんぶの仕方の実際(講義&実習) 2 乳児の衣服の基礎知識、衣服の着せ方、脱がせ方の基本について(ブレンデット授業) 3 乳児の排泄の基礎知識、オムツ交換の仕方の基本について 4 乳児の衣服の着脱方法、オムツ交換の実際(実習) 5 乳児のからだの清潔の基礎知識、沐浴の基本について(ブレンデット授業) 6 沐浴の実際(実習) 7 事例ワーク(ブレンデット) 8 現場連携週・乳児クラス(0.1.2歳児)で発達に配慮されているなど感じた保育環境を記入してください。 9 授乳、冷凍母乳、離乳食の基礎知識について(ブレンデット授業) 10 授乳、離乳食の実際(実習) 11 事例ワーク(ブレンデット授業) 12 現場連携週・見学中に印象に残った乳児(0.1.2歳児)の行動を1つ取り上げ、その行動が見られた状況を具体的に記入し、その時の子どもの気持ちを考えて教えてください。 13 かみつき、ひっかけについて考える① 14 かみつき、ひっかけについて考える②(ブレンデット授業) 15 試験・まとめ				
必須テキスト	「はじめて学ぶ 乳児保育」第4版 志村聡子編著者 同文書院				
参考文献	授業中に紹介、適宜プリントにして配布予定。				
担当教員の 専門分野等	「実務経験のある教員による授業」に該当。専門は「小児看護」「社会福祉施設等(保育所、高齢者施設等)における感染症対応」長年、医療機関、保育所、保健所にて勤務。				
この授業で 身につく 「6つの力」	職業に対する理解	30 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10 %	
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	10 %	
	他者と関わる力	10 %	専門的知識・技術	30 %	

## 2026年度 講義要綱

科 目	乳児保育Ⅱ 必修 講義		講 師	永島 さくら
授業概要	乳児保育Ⅰで学んだ知識を基に、実践的なスキルを身につけることを目的とした授業を行う。0～2歳児の発達特性を踏まえた援助について学ぶ。保育現場で起こり得るさまざまなケースに対応する力を養い、保育士としての専門的な実践力と対応力を習得する。また、低年齢児期における保育計画の立案・実行に必要なスキルについて学ぶ。			
授業目標	0～2歳児の発達特性を踏まえた適切な援助方法を学び、保育現場での対応力と実践力を養う。保育計画の立案・実行に必要なスキルを習得する。			
到達目標1	0～2歳児の発達特性を踏まえた援助について述べることができる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への参加態度、取り組み 20点、期末試験 30点	
到達目標2	具体的な事例をもとに、現場での適切な対応を考えることができる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	授業への参加態度、取り組み 20点、期末試験 30点	
授業方法	対面及びブレンド形式で行う。必要に応じてグループワークやディスカッションを取り入れる。			
授業計画	1 6ヶ月未満の子どもの育ちと保育内容 2 6ヶ月以上1歳未満の子どもの育ちと保育内容 3 1歳以上2歳未満の子どもの育ちと保育内容1 4 1歳以上2歳未満の子どもの育ちと保育内容2 5 2～3歳の子どもの育ちと保育内容1 6 乳児保育における指導計画、観察・記録及び自己評価 7 現場連携週 8 課題のフィードバック、2～3歳の子どもの育ちと保育内容2 9 乳児保育における指導計画、観察・記録及び自己評価 10 子どもの生活と遊びが豊かになる保育環境1 11 現場連携 12 課題のフィードバック、集団生活における配慮 13 子どもの生活と遊びが豊かになる保育環境2 14 環境の変化や移行に対する配慮 15 期末試験			
必須テキスト	松本峰雄監修『よくわかる！保育士エクササイズ5 乳児保育演習ブック[第2版]』ミネルヴァ書房			
参考文献	保育所保育指針			
担当教員の専門分野等	「実務経験のある教員による授業」に該当。長年、保育施設で保育に携わる。現在は保育士専門学校の教員として勤務する傍ら、小規模保育施設や低年齢児の遊びに関する研究を行う。			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	20 %	社会の動きに関心を持ち学び続ける力	10 %
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	10 %
	他者と関わる力	20 %	専門的知識・技術	30 %

## 2026年度 講義要綱

科 目	子どもの健康と安全		必修 講義	講 師	中村 直美
授業概要	保育における健康、安全の管理に関する知識を知り、具体的な方法を体験し、自分自身や仲間と考えることで実践力を養っていく。				
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育における保健的観点を踏まえた保育環境や援助について理解する。</li> <li>2. 関連するガイドライン(※)や近年のデータ等を踏まえ、保育における衛生管理・事故防止及び安全対策・危機管理・災害対策について、具体的に理解する。</li> <li>3. 子どもの体調不良等に対する適切な対応について、具体的に理解する。</li> <li>4. 関連するガイドライン(※)や近年のデータ等を踏まえ、保育における感染症対策について、具体的に理解する。</li> <li>5. 保育における保健的対応の基本的な考え方を踏まえ、関連するガイドライン(※)や近年のデータ等に基づく、子どもの発達や状態等に即した適切な対応について、具体的に理解する。</li> <li>6. 子どもの健康及び安全の管理に関わる、組織的取組や保健活動の計画及び評価等について、具体的に理解する。</li> </ol> ※「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」(平成23年3月、厚生労働省)、「2012年改訂版保育所における感染症対策ガイドライン」(平成24年11月、厚生労働省)、「教育・保育施設等における事故防止及び事故発生時の対応のためのガイドライン」(平成28年3月、内閣府・文部科学省・厚生労働省)等				
到達目標1	1.保育現場における保健的観点を踏まえた衛生管理や感染対策についての基礎知識を知り、具体的に説明できる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度、課題提出(20点)講義内容についての試験(30点)		
到達目標2	2.保育現場における保健的観点を踏まえた安全管理や救急対応についての基礎知識を知り、具体的に説明できる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度、課題提出(20点)講義内容についての試験(30点)		
授業方法	パワーポイントを使用した講義で基本を学び、グループワークや演習で体験し、学習を深めていく。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション(この授業で学ぶこと、授業のすすめかた等について)</li> <li>2 健康観察(身体測定、健康診断)と年間保健計画について(ブレンデッド)</li> <li>3 保育環境の整備、衛生管理について</li> <li>4 子どもの事故の特徴について</li> <li>5 保育所での事故防止と安全管理について(ブレンデッド)</li> <li>6 災害への備えと危機管理について</li> <li>7 救急時の対応について</li> <li>8 現場連携週・保育室内や園庭で子どもたちの安全を守るための環境構成や工夫など気がついた点を教えてください。</li> <li>9 体調不良や傷害の対応について(ブレンデッド)</li> <li>10 子どもと感染症①(基礎知識)救急時の対応について</li> <li>11 子どもと感染症②(標準予防策、保育所での集団発生への対応)(ブレンデッド)</li> <li>12 現場連携週・感染症から子どもたちを守るために、保育者が行っていたこと(環境設定、働きかけ、声かけ等)を教えてください。</li> <li>13 子どもと感染症③(嘔吐処理の方法)</li> <li>14 個別的な配慮を必要とする子どもへの対応(食物アレルギー)について(ブレンデッド)</li> <li>15 試験・まとめ</li> </ol>				
必須テキスト	全国社会福祉協議会 改定1版 最新 保育士養成講座第7巻 「子どもの健康と安全」				
参考文献	授業中に紹介、適宜プリントにして配布予定。				
担当教員の 専門分野等	「実務経験のある教員による授業」に該当。専門は「小児看護」「社会福祉施設等(保育所、高齢者施設等)における感染症対応」長年、医療機関、保育所、保健所にて勤務。				
この授業で 身につく 「6つの力」	職業に対する理解	20 %	社会の動きに関心を持ち 学び続ける力	10 %	
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	10 %	
	他者と関わる力	10 %	専門的知識・技術	40 %	

## 2026年度 講義要綱

科 目	子どもの健康と安全		必修 講義	講 師	竹内 麻貴
授業概要	1. 子どもの健康や安全を守る定義や意義を理解する。 2. 子ども生命維持に必要な知識を学び理解する。 3. 子どもの安全について基礎的な知識を理解し、具体的な対策等を考慮することができる。				
授業目標	1. 保育における保健的観点を踏まえた保育環境や援助について理解する。 2. 関連するガイドライン(※)や近年のデータ等を踏まえ、保育における衛生管理・事故防止及び安全対策・危機管理・災害対策について、具体的に理解する。 3. 子どもの体調不良等に対する適切な対応について、具体的に理解する。 4. 関連するガイドライン(※)や近年のデータ等を踏まえ、保育における感染症対策について、具体的に理解する。 5. 保育における保健的対応の基本的な考え方を踏まえ、関連するガイドライン(※)や近年のデータ等に基づく、子どもの発達や状態等に即した適切な対応について、具体的に理解する。 6. 子どもの健康及び安全の管理に関わる、組織的取組や保健活動の計画及び評価等について、具体的に理解する。 ※「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」(平成23年3月、厚生労働省)、「2018年改訂版 保育所における感染症対策ガイドライン」(平成30年3月、厚生労働省)、「教育・保育施設等における事故防止及び事故発生時の対応のためのガイドライン」(平成28年3月、内閣府・文部科学省・厚生労働省)等				
到達目標1	「子どもの保健」で学んだ総合的に保育することを踏まえ、子どもの健康保持や安全維持するために必要な知識を理解し深めることができる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	定期試験(50%)		
到達目標2	保育現場や保育活動を行う場面を想定し、具体的な安全対策が行える。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	・授業参加態度(演習態度5%、授業態度5%) ・提出物(課題など)(40%) 合計50%		
授業方法	・講義、演習、グループワーク等、授業内容にそった授業形式とする。 ・実際に起こった事故の検証、 ・子どもに起こりやすい事故の演習、 ・ポスターやマニュアルを作成 などを通して事故予防の重要性を学ぶ。				
授業計画	1 必要性の理解、オリエンテーション 子どもの健康の維持と安全管理の必要性を考え、理解する。 2 子どもの多い体調不良やけがについて① 子どもが体調不良を起こす原因、発生状況を知る。また予防法も理解する。 3 子どもの多い体調不良やけがについて② 子どもが体調不良を起こしたときの観察点や応急処置の基本を学び、理解する。 4 保育室内の危険について① 事故予防について学ぶ。 5 保育室内の危険について② けがや事故が発生しやすい箇所を見つけ、どんなけがが予測できるか、またその予防策を考える。 6 災害対策について① 自然災害、天災などの災害と、引き起こる二次災害に備える方法や訓練法を知る。 7 現場連携 課題を提出する 8 災害対策について② 自然災害、天災などの災害と、引き起こる二次災害に備える方法や訓練法を知る。 ポスター作成 9 災害対策について③ 自然災害、天災などの災害と、引き起こる二次災害に備える方法や訓練法を知る。 10 防犯について① ・誘拐や事件の予防について学ぶ。 11 現場連携 課題を提出する 12 防犯について② ・誘拐や事件の予防について学ぶ。 13 事例検討① 実際に起こった事故を通して考えるグループワークを行う。 14 総復習 授業全体をふりかえる。 15 筆記定期試験を行う。				
必須テキスト	『新基本保育士シリーズ⑩子どもの健康と安全』松田博雄、中央法規				
参考文献	『子どもの保健と安全』高内正子、教育情報出版 授業中に紹介および適宜プリントや資料を配布				
担当教員の 専門分野等	国立行政機構京都医療センターにて看護師勤務。(産婦人科、外科、呼吸器科など)。取得資格・・・看護師、介護福祉士、ケアマネージャー、医療的ケア教員資格取得。出産後、小児科クリニック看護師業務と同時に、女性の家事・育児と言う視点で国際女性会議にて講演を行う。母子支援NPOを設立。託児付きクラシックコンサート企画運営、子育て本出版、TV出演等の活動を行う。				
この授業で 身につく 「6つの力」	職業に対する理解	10 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10 %	
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	10 %	
	他者と関わる力	10 %	専門的知識・技術	50 %	

## 2026年度 講義要綱

科 目	社会的養護Ⅱ 必修 講義		講 師	森脇 晋
授業概要	社会的養護Ⅰで学んだことをベースに、施設養護や家庭養護の実際についてアクティブラーニング形式で理解を深める。具体的には、社会的養護における計画・記録・自己評価の実際にも触れながら、日常生活支援・治療的支援・自立支援等の内容、子どもの福祉にかかわる保育士に求められる倫理・資質も学べるように演習する。			
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 子どもの理解を踏まえた社会的養護の基礎的な内容について具体的に理解する。</li> <li>2. 施設養護及び家庭養護の実際について理解する。</li> <li>3. 社会的養護における計画・記録・自己評価の実際について理解する。</li> <li>4. 社会的養護に関わる相談援助の方法・技術について理解する。</li> <li>5. 社会的養護における子ども虐待の防止と家庭支援について理解する。</li> </ol>			
到達目標1	子どもの理解を踏まえた社会的養護の基礎的な内容を具体的に説明できる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業ごとに実施する確認テスト(50点)	
到達目標2	社会的養護における計画⇒相談・援助⇒記録⇒自己評価を理解し、実践することができる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	講義内容に関する期末の筆記試験(50点)	
授業方法	具体的な事例演習やロールプレー等において、受講者自身が考えるための情報提供をしつつ、演習を展開する。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 社会的養護の理解のために</li> <li>2 アドミッションケア</li> <li>3 インケア(心理治療施設・児童自立支援施設)</li> <li>4 インケア(児童養護施設・乳児院・母子生活支援施設)</li> <li>5 リービングケア・アフターケア</li> <li>6 要保護児童対策地域協議会</li> <li>7 現場連携週</li> <li>8 ソーシャルワークにおける利用者理解の技法1(バ이스テックの7原則を用いた支援)</li> <li>9 ソーシャルワークにおける利用者理解の技法1(ジェノグラム・エコマップを用いた支援)</li> <li>10 社会的養護における記録</li> <li>11 現場連携週</li> <li>12 社会的養護における自立支援計画</li> <li>13 社会的養護における第三者評価・自己評価</li> <li>14 社会的養護の担い手に対する考察</li> <li>15 筆記試験と講義のまとめ</li> </ol>			
必須テキスト	図解で学ぶ保育 社会的養護Ⅱ (萌文書林)			
参考文献	授業内で紹介する			
担当教員の 専門分野等	母子生活支援施設における施設長経験や、運営指針・ビジョン等の策定に携わった経験、自治体のこども家庭支援員の経験を元に、社会的養護で実際に展開されている支援を、受講者自身が実際に疑似体験しながら考える授業を志向する。			
この授業で 身につく 「6つの力」	職業に対する理解	10 %	社会の動きに関心を持ち 学び続ける力	20 %
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	20 %
	他者と関わる力	10 %	専門的知識・技術	30 %

## 2026年度 講義要綱

科 目	社会的養護Ⅱ 必修 講義		講 師	鴫田 陽介
授業概要	社会的養護における具体的な支援内容を学ぶ。 支援の基盤となる支援計画の作成方法を学び、実践する。 自身の価値観や考え方の傾向について演習を通して理解を深める。			
授業目標	社会的養護における支援計画及び具体的な支援方法について理解する。 自身の性格や傾向を知り、専門職としての意識を高める。			
到達目標1	社会的養護の具体的な支援方法を理解した上で、施設 実習に挑む心構えを作る事ができる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み(30点) 筆記試験(20点)	
到達目標2	保育士の社会的意義を理解して、どのような役割を持っ ているかを理解し、就職後の心構えを作ることができる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	授業ごとのレポート(40点) ディスカッションへの参加態度(10点)	
授業方法	個人・グループでの演習を多く取り入れ、主体的な参加型の授業を行う。 授業内容を踏まえた社会的養護に関するテーマでレポートを作成する。			
授業計画	1 オリエンテーション(授業方法や成績評価)／社会的養護Ⅰの復習 2 社会的養護施設の子どもたちへの理解 3 子どもの権利 4 生活支援と治療的支援 5 自立支援とアフターケア 6 子どもと向き合うということ 7 現場連携 8 社会的養護を必要とする親子への理解 9 愛着障害児への理解と支援方法 10 情報収集とアセスメント 11 現場連携 12 自立支援計画の作成 13 ケーススタディ 14 社会的養護の教科の振り返りと今後の展望 15 テストと授業の振り返り			
必須テキスト	特に指定なし			
参考文献	授業内において紹介。			
担当教員の 専門分野等	実務経験のある教員による授業に該当。児童養護施設・発達障害児支援施設での経験あり。			
この授業で 身につく 「6つの力」	職業に対する理解	20 %	社会の動きに関心を持ち 学び続ける力	10 %
	社会人としての基本	20 %	主体性 素直 思いやり	10 %
	他者と関わる力	20 %	専門的知識・技術	20 %

## 2026年度 講義要綱

科 目	必修 保育実習指導 I a 講義		講 師	加莉 則子
授業概要	保育所実習を有意義なものにするために、実習日誌の書き方を身につけるとともに、実習に向けた具体的な準備を進める。あわせて、実技の基礎的な練習や実習に臨む際の心構えを養い、実習で必要となる知識と技能を学ぶ。			
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育所、児童福祉施設等の役割や機能を具体的に理解する。</li> <li>2. 観察や子どもとの関わりを通して子どもへの理解を深める。</li> <li>3. 既習の教科目の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に理解する</li> <li>4. 保育の計画・観察・記録及び自己評価等について具体的に理解する。</li> <li>5. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的に理解する。</li> </ol>			
到達目標1	保育所実習に必要な知識を身に付け、実習日誌が記入できる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業課題提出(30点)、筆記試験(日誌一日分)20点	
到達目標2	保育所実習に臨む実習生としての態度や保育技術を身に付けることができる	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	手遊び、絵本読み聞かせ発表(20点)、指導案提出物(15点)、保育教材提出(15点)	
授業方法	講義、発表、グループワークなど			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 保育実習の概要 実習 I 授業ルール</li> <li>2 実習の目的と実習の種類</li> <li>3 保育所等の一日</li> <li>4 実習記録を記入する意味 保育士倫理綱領</li> <li>5 実習生の健康管理と安全管理</li> <li>6 実習課題作成</li> <li>7 実習に伴う書類作成 事務手続きの確認</li> <li>8 現場連携</li> <li>9 オリエンテーション</li> <li>10 実習の心得</li> <li>11 部分実習</li> <li>12 現場連携</li> <li>13 試験</li> <li>14 手遊び・読み聞かせポイント 発表</li> <li>15 最終確認</li> </ol> <p>※授業の内容は進み具合によって変更する場合があります</p>			
必須テキスト	千春と大吾の保育実習ストーリー(萌文書林)			
参考文献	授業内適宜紹介			
担当教員の専門分野等	「実務経験のある教員による授業」に該当する。保育所にて保育士、主任、園長として長年勤務する。共著に「0～6歳児 「言葉をそだてる」保育よくあるギモン40&言葉あそび20」(東洋館出版)の他、日本国語教育学会月刊誌への執筆なども行う。			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	20 %	社会の動きに関心を持ち 学び続ける力	10 %
	社会人としての基本	20 %	主体性 素直 思いやり	10 %
	他者と関わる力	20 %	専門的知識・技術	20 %

## 2026年度 講義要綱

科 目	保育実習指導 I a	必修 講義	講 師	松森 照幸
授業概要	保育所実習を有意義なものにするために、実習日誌の書き方を身につけるとともに、実習に向けた具体的な準備を進める。あわせて、実技の基礎的な練習や実習に臨む際の心構えを養い、実習で必要となる知識と技能を学ぶ。			
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育所、児童福祉施設等の役割や機能を具体的に理解する。</li> <li>2. 観察や子どもとの関わりを通して子どもへの理解を深める。</li> <li>3. 既習の教科目の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に理解する</li> <li>4. 保育の計画・観察・記録及び自己評価等について具体的に理解する。</li> <li>5. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的に理解する。</li> </ol>			
到達目標1	保育所実習に必要な知識を身に付け、実習日誌が記入できる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業課題提出(30点)、筆記試験(日誌一日分)20点	
到達目標2	保育所実習に臨む実習生としての態度や保育技術を身に付けることができる	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	手遊び、絵本読み聞かせ発表(20点)、指導案提出物(15点)、保育教材提出(15点)	
授業方法	講義、発表、グループワークなど			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 保育実習の概要 実習 I 授業ルール</li> <li>2 実習の目的と実習の種類</li> <li>3 ゲスト講師を招いて講義を聞き保育実習へのイメージを具体的にもつ</li> <li>4 実習記録を記入する意味 保育士倫理綱領</li> <li>5 実習生の健康管理と安全管理</li> <li>6 実習課題作成 実習に伴う書類作成 事務手続きの確認</li> <li>7 現場連携 実習に伴う書類作成 事務手続きの確認</li> <li>8 現場連携 オリエンテーション</li> <li>9 オリエンテーション</li> <li>10 実習の心得</li> <li>11 現場連携 部分実習</li> <li>12 現場連携 部分実習</li> <li>13 試験</li> <li>14 手遊び・読み聞かせポイント 発表</li> <li>15 最終確認</li> </ol> <p>※授業の内容は進み具合によって変更する場合があります</p>			
必須テキスト	千春と大吾の保育実習ストーリー(萌文書林)			
参考文献				
担当教員の専門分野等	保育士資格を持ち、保育所での実務経験がある教員が、その経験に基づいた指導を行う科目である。			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	20 %	社会の動きに関心を持ち 学び続ける力	10 %
	社会人としての基本	20 %	主体性 素直 思いやり	10 %
	他者と関わる力	20 %	専門的知識・技術	20 %

## 2026年度 講義要綱

科 目	保育実習指導 I b 必修 講義	講 師	加莉 則子	
授業概要	様々な施設の現場に立ち、対象者との関わりを通して学ぶ「施設実習」を行う際に必要となる知識や視点を養い、「施設実習」で得る貴重な経験を、より有意義な学びとできるよう、具体的な準備を進める。			
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育実習の意義・目的を理解する。</li> <li>2. 実習の内容を理解し、自らの実習の課題を明確にする。</li> <li>3. 実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務 等について理解する。</li> <li>4. 実習の計画・実践・観察・記録・評価の方法や内容について具体的に理解する。</li> <li>5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、今後の学習に向けた課題や 目標を明確にする。</li> </ol>			
到達目標1	保育所実習に必要な知識を身に付け、実習日誌が記入できる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業課題提出(30点)、筆記試験(日誌一日分)20点	
到達目標2	施設実習に臨む実習生としての態度や技術を身に付けることができる	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み姿勢・グループワークへの参加度(20点)、実習目標の作成(15点)リアクションペーパー提出(15点)	
授業方法	講義、発表、ワーク等			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション(授業概要・目標・方法・評価・持物等の説明)</li> <li>2 児童福祉施設の種類についての理解</li> <li>3 子どもおよび利用者の理解</li> <li>4 子どもおよび利用者の理解</li> <li>5 子どもの人権と最善の利益への考慮</li> <li>6 個人情報と守秘義務について</li> <li>7 実習日誌の意義・書き方の理解①</li> <li>8 現場連携週</li> <li>9 実習日誌の意義・書き方の理解②</li> <li>10 施設実習への具体的準備①:支援計画の理解/個人票作成、オリエンテーション準備</li> <li>11 施設実習への具体的準備②:実習目標の作成(1)</li> <li>12 現場連携週</li> <li>13 施設実習への具体的準備③:実習目標の作成(2)</li> <li>14 実習日誌の理解と練習</li> <li>15 施設実習への具体的準備:実習前/実習中/実習後にすること</li> </ol>			
必須テキスト	特になし			
参考文献	授業中に適宜紹介する			
担当教員の専門分野等	「実務経験のある教員による授業」に該当。保育所にて保育士、主任、マネージャー、園長として長年勤務。			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	10 %	社会の動きに関心を持ち 学び続ける力	10 %
	社会人としての基本	25 %	主体性 素直 思いやり	20 %
	他者と関わる力	25 %	専門的知識・技術	10 %

## 2026年度 講義要綱

科 目	保育実習指導 I b 必修 講義		講 師	鴫田 陽介
授業概要	様々な施設の現場に立ち、対象者との関わりを通して学ぶ「施設実習」を行う際に必要となる知識や視点を養い、「施設実習」で得る貴重な経験を、より有意義な学びとできるよう、具体的な準備を進める。			
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育実習の意義・目的を理解する。</li> <li>2. 実習の内容を理解し、自らの実習の課題を明確にする。</li> <li>3. 実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解する。</li> <li>4. 実習の計画・実践・観察・記録・評価の方法や内容について具体的に理解する。</li> <li>5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、今後の学習に向けた課題や 目標を明確にする。</li> </ol>			
到達目標1	講義内容を理解し、要点をまとめ、自らの考えを文章として記すことができる	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	講義内容に関するノート提出(60点)	
到達目標2	実習に臨むにあたり、目的意識や自らの課題を具体的に記すことができる	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み姿勢(20点)、実習目標の作成(20点)	
授業方法	ノート作成を伴う講義受講			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション(授業概要・目標・方法・評価・持物等の説明)</li> <li>2 子どもの育ちの理解①:愛着障害(1)</li> <li>3 子どもの育ちの理解②:愛着障害(2)</li> <li>4 関わりの技術①:実際の実習より(ロールプレイ)</li> <li>5 関わりの技術②:「視点」を養う</li> <li>6 子どもの育ちの理解③:発達障害</li> <li>7 現場連携</li> <li>8 関わりの技術③:療育場面より</li> <li>9 施設実習先の発表</li> <li>10 施設実習への具体的準備①:個人票作成、オリエンテーション準備</li> <li>11 現場連携</li> <li>12 施設実習への具体的準備②:実習目標の作成(1)</li> <li>13 施設実習への具体的準備③:実習目標の作成(2)</li> <li>14 実習日誌の理解と練習</li> <li>15 施設実習への具体的準備:実習前/実習中/実習後にすること</li> </ol>			
必須テキスト	特になし			
参考文献	授業中に適宜紹介する			
担当教員の専門分野等	実務経験のある教員による授業。児童養護施設・発達障害児支援施設での勤務経験あり。			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	10 %	社会の動きに関心を持ち 学び続ける力	10 %
	社会人としての基本	25 %	主体性 素直 思いやり	20 %
	他者と関わる力	25 %	専門的知識・技術	10 %

## 2026年度 講義要綱

科 目	子どもと保育 選択必修 講義		講 師	加莉 則子
授業概要	保育の本質、目的、意義を実践的に学ぶ。 実習生としての基礎知識、技量を身につけ、実習への準備をすすめながら、実習への期待を持つ。			
授業目標	保育所の基本的な事柄を学び、実習について準備を進める。 実習生として必要な力を理解し、保育者の基本的なスキルを身に付ける。			
到達目標1	保育所の役割、流れ、基本的なルールについて理解できる	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業ワークシート:20点 授業課題提出:20点 グループワークへの取り組み:10点	
到達目標2	実習生として必要な力を理解、習得し、実践できる	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	報告、連絡、相談:30点 発表取り組み:20点	
授業方法	講義、実技、個人ワーク、グループワーク、ワークシートの記入、授業内で配布されたファイル・資料を使用する			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 「オリエンテーション」実習授業のルールと実習について／保育施設で求められること、実習生に必要な力</li> <li>2 保育を考える／基礎国語力</li> <li>3 保育の方法/環境を通した保育</li> <li>4 保育者としての自分/社会のマナールールを考える</li> <li>5 保育者としての自分／子どもから見た自分</li> <li>6 子どもの視点を考える/エプロン製作</li> <li>7 現場連携準備・観察の視点／5w1hの基本</li> <li>8 現場連携週</li> <li>9 現場連携振り返り/子どもの活動と必要な技術</li> <li>10 実習ICT／スケッチブックシアター</li> <li>11 現場連携準備・観察の視点／保育園のマナー</li> <li>12 現場連携週</li> <li>13 現場連携振り返り・実習日誌／スケッチブックシアター</li> <li>14 スケッチブックシアター発表</li> <li>15 実習指導1aに向けて授業の振り返り</li> </ol>			
必須テキスト	千春と大吾の保育実習ストーリー (萌文書林)			
参考文献	なし			
担当教員の 専門分野等	「実務経験のある教員による授業」に該当する。保育所にて保育士、主任、園長として長年勤務する。共著に「0～6歳児 「言葉をそだてる」保育よくあるギモン40&言葉あそび20」(東洋館出版)の他、日本国語教育学会月刊誌への執筆なども行う。			
この授業で 身につく 「6つの力」	職業に対する理解	20 %	社会の動きに関心を持ち 学び続ける力	10 %
	社会人としての基本	20 %	主体性 素直 思いやり	20 %
	他者と関わる力	10 %	専門的知識・技術	20 %

## 2026年度 講義要綱

科 目	子どもと保育 選択必修 講義	講 師	松森 照幸	
授業概要	保育の本質、目的、意義を実践的に学ぶ。 実習生としての基礎知識、技量を身につけ、実習への準備をすすめながら、実習への期待を持つ。			
授業目標	保育所の基本的な事柄を学び、実習について準備を進める。 実習生として必要な力を理解し、保育者の基本的なスキルを身に付ける。			
到達目標1	保育所の役割、流れ、基本的なルールについて理解できる	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業ワークシート:20点 授業課題提出:20点 グループワークへの取り組み:10点	
到達目標2	実習生として必要な力を理解、習得し、実践できる	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	報告、連絡、相談:30点 発表取り組み:20点	
授業方法	講義、実技、個人ワーク、グループワーク、ワークシートの記入、授業内で配布されたファイル・資料を使用する			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 「オリエンテーション」実習授業のルールと実習について／保育施設で求められること、実習生に必要な力</li> <li>2 保育現場からのメッセージ／基礎国語力</li> <li>3 保育を考える／保育教材について・スケッチブックシアター①</li> <li>4 保育の方法／スケッチブックシアター②・JTP</li> <li>5 保育者としての自分／社会のマナー</li> <li>6 保育所のルール／手遊び・絵本調べ</li> <li>7 現場連携準備・観察の視点①／5w1hの基本</li> <li>8 現場連携週</li> <li>9 現場連携振り返り・実習日誌①／エプロン作成</li> <li>10 実習ICT／スケッチブックシアター③</li> <li>11 現場連携準備・観察の視点②／保育園のマナー</li> <li>12 現場連携週</li> <li>13 現場連携振り返り・実習日誌②／スケッチブックシアター④</li> <li>14 スケッチブックシアター発表</li> <li>15 実習指導1aに向けて授業の振り返り</li> </ol>			
必須テキスト	千春と大吾の保育実習ストーリー (萌文書林)			
参考文献	なし			
担当教員の 専門分野等	実務経験のある教員による授業 幼稚園教諭及び保育士資格を持ち、幼稚園または保育士としての実務経験がある教員が、その経験に基づいた指導を行う科目である。			
この授業で 身につく 「6つの力」	職業に対する理解	20 %	社会の動きに関心を持ち 学び続ける力	10 %
	社会人としての基本	20 %	主体性 素直 思いやり	20 %
	他者と関わる力	10 %	専門的知識・技術	20 %

## 2026年度 講義要綱

科 目	保育内容の理解と方法・音楽遊びⅡ 選択必修 講義		講 師	上田 亜津子、木下 裕子、佐藤 季里、平野 夏子
授業概要	子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境にも目を向け、子どもの生活と遊びを豊かに展開するための音楽表現の基礎を学び、感じたことや考えたことを自主的に表現できる力を養う。コードネームによる簡易伴奏の仕組みを知り、まずハ長調の曲で演習していく。15回目の実技試験課題はピアノ曲1曲、子どもの歌1曲の弾き歌いを演奏する。自身のスキルに合わせた曲目選択は担当講師とよく検討し決定すること。			
授業目標	1. 子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境等と保育所保育指針に示される保育の内容を理解した上で、子どもの生活と遊びを豊かに展開するために必要な音楽的知識や技術を実践的に習得する。 2. 保育現場で活用できる教材を中心に、保育の環境の構成及び具体的展開のための技術を実践的に習得する。			
到達目標1	教科書や「はじめての弾き歌い」のハ長調のコードネームによる弾き歌い等について自主練習を行い、予習復習したうえで個人レッスンに臨み、子どもたちへの視点を持った弾き歌いが出来る。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	個人レッスンと自主練習への取り組み度(20点)、実技試験発表(30点)	
到達目標2	様々な子どもの歌を演習し互いに聞き合い、環境、生活、人間関係等のそれぞれの歌のねらいを知り、自信を持って伝えたいことが表現出来る。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	グループ演習への積極的参加度(20点)、実技試験発表(30点)	
授業方法	クラスを2つのグループに分け、45分ずつ教室を入れ替わり、ピアノを中心とした個人レッスンと歌遊びのグループレッスンとを行う。グループ分けは学生ポータルで発表されるので、各自確認すること。			
授業計画	<p>1 前・後半に分かれて各教室でのオリエンテーション。(A) (B)2グループに分かれて45分で入れ替わる)</p> <p>2 (A)ピアノ等による個人レッスン／(B)歌遊びのグループレッスン。以下の項目について学生の状況に合わせて複合的に盛り込み進めていく。</p> <p>3 (A)ピアノ等による個人レッスン／(B)保育士に必要な音楽基礎知識(五線紙は授業内で配布する。)</p> <p>4 (A)ピアノ等による個人レッスン／(B)現場で役立つ声の出し方(呼吸法・発声法)</p> <p>5 (A)ピアノ等による個人レッスン／(B)子どもの歌の持つ役割や意義を考察する。</p> <p>6 (A)ピアノ等による個人レッスン／(B)童謡・唱歌等の子どもの歌の演習</p> <p>7 (A)ピアノ等による個人レッスン／(B)わらべ歌・手遊び歌の演習</p> <p>8 後期産学連携第8週課題:今回は、保育者が手遊びやリズム遊び、音楽遊び等で子どもたちと関わる姿は見られましたか?そこにはどのようなねらいと効果が見られたか、教えてください。また、そのような場面に出会わなかった方は、音楽遊びを園生活の中で必要に応じて展開する際、保育者はどんなことに気を付けたらよいか、考えを教えてください。</p> <p>9 (A)ピアノ等による個人レッスン／(B)簡単な2声のハーモニー(共働作業を楽しむ)</p> <p>10 (A)ピアノ等による個人レッスン／(B)リトミックを含む歌遊びの演習</p> <p>11 (A)ピアノ等による個人レッスン／(B)互いに聞き合い、協力してより良い表現を目指す。</p> <p>12 後期産学連携第12週課題:今回は、保育者が手遊びやリズム遊び、音楽遊び等で子どもたちと関わる姿は見られましたか?そこにはどのようなねらいと効果が見られたか、教えてください。また、そのような場面に出会わなかった方は、11月ならどんな歌遊びを、どんな展開で子どもたちと楽しみたいか、対象年齢も決めた上で教えてください。</p> <p>13 (A)ピアノ等による個人レッスン／(B)個人レッスンによる苦手克服のためのアドバイス。</p> <p>14 実技試験に向けてのリハーサルと個別指導 (A) (B)共)</p> <p>15 実技試験(発表会)と各自の振り返り(A)(B)共)</p>			
必須テキスト	『現場で役立つ幼稚園教諭・保育士の為のピアノ入門』ドレミ出版 『ポケットいっぱいの子』教育芸術社			
参考文献	『はじめての弾き歌い』日本児童教育専門学校編			
担当教員の専門分野等	専任:木下裕子 東京藝術大学卒業。公財日本オペラ振興会育成部第6期修了。声楽、ピアノ、合唱指導、リトミック指導。			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	10 %	社会の動きに関心を持ち 学び続ける力	10 %
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	15 %
	他者と関わる力	15 %	専門的知識・技術	40 %

## 2026年度 講義要綱

科 目	選択必修 保育内容の理解と方法・音楽遊びⅡ 講義	講 師	金淵 洋子、木下 裕子、 佐藤 季里、鈴木 真智子	
授業概要	子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境にも目を向け、子どもの生活と遊びを豊かに展開するための音楽表現の基礎を学び、感じたことや考えたことを自主的に表現できる力を養う。コードネームによる簡易伴奏の仕組みを知り、まずハ長調の曲で演習していく。15回目の実技試験課題はピアノ曲1曲、子どもの歌1曲の弾き歌いを演奏する。自身のスキルに合わせた曲目選択は担当講師とよく検討し決定すること。			
授業目標	1. 子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境等と保育所保育指針に示される保育の内容を理解した上で、子どもの生活と遊びを豊かに展開するために必要な音楽的知識や技術を実践的に習得する。 2. 保育現場で活用できる教材を中心に、保育の環境の構成及び具体的展開のための技術を実践的に習得する。			
到達目標1	教科書や「はじめての弾き歌い」のハ長調のコードネームによる弾き歌い等について自主練習を行い、予習復習したうえで個人レッスンに臨み、子どもたちへの視点を持った弾き歌いが出来る。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	個人レッスンと自主練習への取り組み度(20点)、実技試験発表(30点)	
到達目標2	様々な子どもの歌を演習し互いに聞き合い、環境、生活、人間関係等のそれぞれの歌のねらいを知り、自信を持って伝えたいことが表現出来る。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	グループ演習への積極的参加度(20点)、実技試験発表(30点)	
授業方法	クラスを2つのグループに分け、45分ずつ教室を入れ替わり、ピアノを中心とした個人レッスンと歌遊びのグループレッスンとを行う。グループ分けは学生ポータルで発表されるので、各自確認すること。またオンラインの個人レッスンでは画面に鍵盤・手元を映すよう工夫すること。			
授業計画	<p>1 前・後半に分かれて各教室でのオリエンテーション。(A B2グループに分かれて45分で入れ替わる)</p> <p>2 Aピアノ等による個人レッスン/B歌遊びのグループレッスン。以下の項目について学生の状況に合わせて複合的に盛り込みを進めていく。</p> <p>3 Aピアノ等による個人レッスン/B保育士に必要な音楽基礎知識(五線紙は授業内で配布する。)</p> <p>4 Aピアノ等による個人レッスン/B現場で役立つ声の出し方(呼吸法・発声法)</p> <p>5 Aピアノ等による個人レッスン/B子どもの歌の持つ役割や意義を考察する。</p> <p>6 Aピアノ等による個人レッスン/B童謡・唱歌等の子どもの歌の演習</p> <p>7 Aピアノ等による個人レッスン/Bわらべ歌・手遊び歌の演習</p> <p>8 後期産学連携第8週課題:今回は、保育者が手遊びやリズム遊び、音楽遊び等で子どもたちと関わる姿は見られましたか?そこにはどのようなねらいと効果が見られたか、教えてください。また、そのような場面に出会わなかった方は、音楽遊びを園生活の中で必要に応じて展開する際、保育者はどんなことに気を付けたらよいか、考えを教えてください。</p> <p>9 Aピアノ等による個人レッスン/B簡単な2声のハーモニー(共働作業を楽しむ)</p> <p>10 Aピアノ等による個人レッスン/Bリリックを含む歌遊びの演習</p> <p>11 Aピアノ等による個人レッスン/B互いに聞き合い、協力してより良い表現を目指す。</p> <p>12 後期産学連携第12週課題:今回は、保育者が手遊びやリズム遊び、音楽遊び等で子どもたちと関わる姿は見られましたか?そこにはどのようなねらいと効果が見られたか、教えてください。また、そのような場面に出会わなかった方は、11月ならどんな歌遊びを、どんな展開で子どもたちと楽しみたいか、対象年齢も決めた上で教えてください。</p> <p>13 Aピアノ等による個人レッスン/B個人レッスンによる苦手克服のためのアドバイス。</p> <p>14 実技試験に向けてのリハーサルと個別指導 (A B共)</p> <p>15 実技試験(発表会)と各自の振り返り(A B共)</p>			
必須テキスト	『現場で役立つ幼稚園教諭・保育士の為のピアノ入門』ドレミ出版 『ポケットいっぱいの子』教育芸術社			
参考文献	『はじめての弾き歌い』日本児童教育専門学校編			
担当教員の専門分野等	専任:木下裕子 東京藝術大学卒業。公財日本オペラ振興会育成部第6期修了。声楽、ピアノ、合唱指導、リリック指導。			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	10 %	社会の動きに関心を持ち 学び続ける力	10 %
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	15 %
	他者と関わる力	15 %	専門的知識・技術	40 %